

和仏法律学校講義録

岩田, 一郎 / 豊島, 直通 / 仁井田, 益太郎 / 松本, 烝治 /
志田, 友吉

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

69

(発行年 / Year)

1903-02-26

（明治三十五年十一月）日第三種郵便物認可 毎月廿四日（日）日六日（日）日十二日（日）日十八日（日）日廿四日（日）日三十日（日）日
（明治三十五年十一月）日第三種郵便物認可 毎月廿四日（日）日六日（日）日十二日（日）日十八日（日）日廿四日（日）日三十日（日）日

明治三十六年二月二十六日發行

三十六年度 第二學年ノ八

和佛法律與子找講義錄

號四拾六第

和佛法律學校

學

第二學年 第八號目次

商 法 總 則 (頁一〇八)

法學士 松 本 泰 治

商 法 商 行 爲 (頁一〇九)

法學士 志 田 友 吉

民 事 訴 訟 法 第 一 編 (頁一四〇)

法學士 仁 井 田 益 太 郎

民 事 訴 訟 法 第 二 編 (頁一四〇)

法學士 岩 田 一 郎

刑 事 訴 訟 法 (頁一四〇)

法學士 豐 島 直 通

雜 報

○取締役ノ權限ト株券ノ供託○選送取扱人ノ責任ノ時效○手形ノ受取人タル資格ト被取人タル資格○演說會○擬律試案

090
1903
2-1-8

ナリ主人ハ或ハ自然人タルコトアリ或ハ法人タルコトアリ又營業主人ハ數人ヨリ成ルコトアリ例ヘハ組合ノ場合ノ如キ即チ是ナリ之ニ反シテ一人ニシテ數多ノ營業ノ主體タルコトアリ例ヘハ兼業ノ場合ノ如キ是ナリ

第二節 營業ノ讓渡

營業トハ前節ニ於テ述ヘタル如ク商人ノ營業上ノ一切ノ財産ヲ謂フモノニシテ人格ヲ有スルモノニ非ス即チ權利主體タルコトヲ得サルモノナリ之ト同シク又權利ノ客體タルコトヲ得ス即チ營業ハ各種ノ權利ノ集合ニシテ一ノ權利ノ客體ニ非ス然レトモ一括シテ法律行爲ノ目的ト爲リ同一ノ法律上ノ處分ヲ受クルコトアリ是ヨリ説明セントスル營業ノ讓渡ハ即チ此場合ナリ

營業ノ讓渡ハ商人ノ營業上ノ財産ヲ一括シテ讓渡スルコトヲ目的トスル雙方の商行爲ナリ即チ讓渡人タル商人ニ在リテハ其最後ノ附屬の商行爲ニシテ讓受人タル商人ニ在リテハ所謂準備行爲トシテ其最初ノ附屬の商行爲ナリ(ペーレンド)商法教科書第一三五頁)スタウプ商法註釋第一〇四六頁千八百九十九年

090
1903
2-1-8

ナリ主人ハ或ハ自然人タルコトアリ或ハ法人タルコトアリ又營業主人ハ數人
ヨリ成ルコトアリ例ヘハ組合ノ場合ノ如キ即チ是ナリ之ニ反シテ一人ニシテ
數多ノ營業ノ主體タルコトアリ例ヘハ兼業ノ場合ノ如キ是ナリヘハ手ハ其
營業ノ主體タルコトアリ例ヘハ兼業ノ場合ノ如キ是ナリヘハ手ハ其
營業ノ主體タルコトアリ例ヘハ兼業ノ場合ノ如キ是ナリヘハ手ハ其

第二節 營業ノ讓渡

營業トハ前節ニ於テ述ヘタル如ク商人ノ營業上ノ一切ノ財産ヲ謂フモノニシ
テ人格ヲ有スルモノニ非ス即チ權利主體タルコトヲ得テモノナリ之ト同シ
ク又權利ノ客體タルコトヲ得ス即チ營業ハ各種ノ權利ノ集合ニシテ一ノ權利
ノ客體ニ非ス然レトモ一括シテ法律行為ノ目的ト爲リ同一ノ法律上ノ處分ヲ
受クルコトアリ是ヨリ説明セントスル營業ノ讓渡ハ即チ此場合ナリ即チ
營業ノ讓渡ハ商人ノ營業上ノ財産ヲ一括シテ讓渡スルコトヲ目的トスル雙方
の商行爲ナリ即チ讓渡人タル商人ニ在リテハ其最後ノ附屬の商行爲ニシテ讓
受人タル商人ニ在リテハ所謂準備行為トシテ其最初ノ附屬の商行爲ナリ(ペー
ルシド商法教科書第一三五頁)スタウプ商法註釋第一〇四六頁千八百九十九年

六月二十日獨逸帝國裁判所判決參照而シテ其效力ハ讓渡セラルル物權債權系
ハ無形ノ財產權ニ付テ之ヲ觀察スルトキハ此等ノ權利ハ我國法上當事者ノ意
思表示ニミテ依リテ移轉セラルルモノナルヲ以テ營業ノ讓渡ト共ニ直チニ移
轉ス唯此等ノ權利ノ移轉ヲ以テ第三三者ニ對抗スルニハ不動產ニ付テハ登記
產ニ付テハ引渡債權ニ付テハ民法第四百六十七條又ハ第四百六十九條ノ手續
ヲ要シ民法第一百七七條第一七八條參照特許ニ付テハ特許法第四條第二項ノ手
續意匠專川權ニ付テハ意匠法第六條第一項ノ手續商標ニ付テハ商標法第六條
第一項ノ手續銀物探掘權ニ付テハ銀業條例第二十條第二項ノ手續著作權ニ付
テハ著作權法第十五條第二項ノ手續等ヲ要スルモノニシテ此等ハ民法其他ノ
特別法ヨリ生スル效果ナリ

債務ニ付テ營業讓渡ノ效力ヲ案スルニ我民法ハ債務ノ引受ヲ認メタルヲ以テ
讓渡人ニ對スル更改ノ契約或ハ讓渡人ヲ爲メニ代リテ辨濟ヲ爲スヘキノ契約
ナルヲ效力ヲ有スルニ止メタルモノナリト信ス民法第四七四條第五一三條第五
二四條參照

更ニ譲渡ノ得意又ハ營業上ノ關係ハ如キ事實上ノ關係ニ付テ營業ノ讓渡カ如何
ナル效力ヲ及ボスヤヲ考テ此等ノ事實上ノ關係ニ付テハ營業ノ讓渡ハ行
爲ノ目的トスル一種ノ無名契約タルノ效力ヲ有スルモノナリト信ス詳言セバ
讓渡人ハ讓受人ヲシテ此等ノ事實上ノ關係ヨリ生スル利益ヲ享受セシムルハ
義務ヲ負フモノナリ
營業ノ讓渡其レ自身ノ性質ヨリ生スル效力ハ以上述ヘタル所ノ如シ然ルニ法
律ハ之ニ關シテ特別ノ規定ヲ爲シ更ニ之ニ一ノ特別ノ效力ヲ與ヘタリ即チ第
二十二條及ヒ第二十三條ノ規定是ナリ今同條ノ規定ニ依リ其效力ヲ述ブレバ
左ノ如シ
(一) 讓渡人カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ同市町村內(但市制又ハ町村制
ヲ施行セザル町村ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域東京市大阪市京
都市ニ在リテハ其各區ニ於テ二十年間同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ
特約ニ依リ此ノ如キ義務ヲ免ルルコトヲ得ヘキハ論ヲ埃タス商法施行法第一
四條參照)

(二) 讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超ヘサル期間内ニ於テノミ其效力ヲ有ス第二項故ニ此制限ヲ超ユル特約ヲ爲シタルトキハ其地域又ハ期限ハ右ノ制限額ヲ減殺セラルト雖モ全然無効ノモノト爲ルコトナシ

(三) 讓渡人ハ以上述ヘタル事項ニ拘ハラス不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス(第二條第二項故ニ例ヘハ讓渡人ハ同府縣内又ハ同市町村内ニ非サルコトヲ奇貨トシ軒ヲ並ヘテ不正ノ競争ヲ爲スコトヲ得ス而シテ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得サルハ營業讓渡契約ノ當然ノ效果ニシテ敢テ法律ノ明文ヲ埃ツヘキモノニ非ス又特約ヲ以テ此ノ如キ義務ヲ免ルルコトヲ得サルハ勿論ナリト信ス

學者或ハ自己ノ營業ヲ廢止シ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ヲ爲スコトナカルヘキコトヲ約スル所ノ約束自體カ營業ノ讓渡ナリト論スル者アリト雖モ第十二條第一項ハ既ニ營業ヲ讓渡スルニ當リ特約ヲ以テ此ノ如キ義務ヲ負ハサルコトヲ約シ得ルコトヲ豫想スルヲ以テ此說ハ採ルニ足ラサルハ法文上一點

ノ疑ナキモノト信ス尙ホ外國ノ學說ヨリ之ヲ見ルニ英法ノ如キハ前述セシ如ク營業ヲ決義ニ解スルニ拘ハラス其讓渡ノ後ニ於テ縱令從來ノ營業所ノ隣家ニ於テ從來ノ營業ヲ爲スモ可ナリトハ同國判決例ノ一致スル所ナリ又佛法ニ於テモ營業ノ讓渡ニ該リテハ營業ノ同一ナルコトヲ直接ニ表明スルニ足ルヘキ營業上ノ財産其他ノ關係ヲ讓渡スルコトヲ要ストハ普通ノ學說ナリ又獨逸ニ於テハ營業ノ舊態ノ儘存續スルニ要スヘキ財産ノ讓渡アルニ非ズレハ營業ノ讓渡アリト謂フコトヲ得ストハ一般ノ學說ナリ獨逸帝國裁判所判決例第三七卷第一七八頁參照

以上述ヘタル如ク營業ノ讓渡ハ必スシモ商人ノ營業上ノ財産ノ全部ノ讓渡アルコトヲ要セス其重ナル部分即チ營業ノ狀態ヲ變セシテ之ヲ存續スルニ必要ナル部分ノ讓渡アルヲ以テ足レリトス而シテ如何ナル部分カ此ノ如キ必要ナル部分ナルヤハ各箇ノ營業ニ付テ必スシモ一樣ナラスト雖モ得意又ハ營業上ノ秘訣ノ如キハ通常其必要ナル部分ニ屬スヘキモノト信ス唯商號ト共ニスルニ非サル營業ノ讓渡ハ法律ノ認ムル所ナリ(第二三條而シテ營業讓渡ノ際ニ

於テ營業上ノ財産ノ如何ナル部分ヲ讓渡セラレタルヤハ各箇ノ行為ノ際ニ於ケル當事者ノ意思表示ニ依ルモノニシテ事實問題ニ屬シ法律ハ之カ範圍ニ付テ推定ヲ下サズ(舊商法第二十八條第二項ハ此推定ヲ爲シタリ故ニ各箇ノ場合ニ當事者ノ意思ヲ解シテ之ヲ決セザルベカラ而レテ此場合ニ於テハ讓渡ノ目的タル財産ノ範圍ハ之ヲ廣ク解シ總テ營業ニ關スル一切ノ財産ハ特約ナキ限ハ之ヲ讓渡セラレタルモノト看做シテ可ナリト論スル者アリ又之カ反對論アリト雖モ少クトモ營業ノ存続ニ必要ナル財産ノ讓渡アリタルモノト解セザルヘカラスト信ス尙ホ此點ニ關シテ我大審院ニ判例アリ其要旨ニ曰ク「營業ヲ讓渡スルニ當リテハ店舖貨物債權債務得意先及ヒ商業帳簿等ハ總テ之ヲ讓渡スルヲ通常トス故ニ其反證アラザル限リハ總テ讓渡アリタルモノト推定セザルヘカラスト」三十三年判決錄第一〇卷第四二頁若シ當事者カ營業上ノ一切ノ財産ヲ讓渡スヘキコトヲ約シタルモノト觀ムヘキトキハ營業上ノ用ニ供セラレタル一切ノ動産不動産其他ノ物件營業ニ關シテ生シタル一切ノ契約上及ヒ不法行為上ノ債權商號商標電信略號簿覽會其他ニ於テ得タル實狀實牌ノ如キ

モノハ讓渡セザルモノト看做スルコト更得ヘ政而於テ商業帳簿亦讓渡ノ目的物タルモノト看做コトヲ得ヘテ此場合ニ於テハ第二十八條ニ規定セザル商業帳簿保存ノ義務ヲ缺キタルモノト看做スコトヲ得ザルモノト信ス尙ホ店ハ勿論本店ト共ニ讓渡セラレタルモノト看做シテ可大リ以上ハ積極財産ニ付テ述ヘタルモノナルカ消極財産ニ付テモ特約ナキトキハ營業ニ關シテ生シタル一切ノ契約上及ヒ不法行為上ノ債務ニ付テモ更改ニ依ルカ又ハ第三者爲メニスル辨濟ニ依リテ之ヲ引受ケントスルノ契約アリタルモノト看做スヘキモノト以テ「即ち其結果ハ其債權者又ハ債務者ニ對シテ如何ナル效力ヲ及ボスヤ換言セバ讓渡人ノ債權者又ハ債務者ニ對シテ其債務者トシテ訴求スルコトヲ得ルヤ又讓渡人ノ債務者ハ有效ニ讓受人ニ對シテ債務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヤ」ニ付テハ舊商法第二十八條ハ不完全カヲ規定ヲ爲シ又獨逸商法第二十五條第二十六條ノ如キハ多少詳細ヲ規定ヲ爲スト雖モ我商法ニハ別段ノ規定ナキヲ以テ一般ノ原則ニ據リ推論シテ決スル

ヨリ外ナク即チ以上述べタル如ク當事者ノ意思ニ依リ範圍ヲ定メタル土ニ於テ債權モシテ譲渡セラルタル目的物中ニ包含セラレタルモノト明カナルトキハ債務者ハ民法第四百六十七條又ハ第四百六十九條ノ手續前ナリト雖モ有效ニ讓受人ニ對シテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス何トナレハ此等ノ手續ハ唯第三者ニ對スル對抗要件タルニ止マルモノナレハナリ但手形ノ場合ニ於テハ手形法ノ規定ニ從ヒ手形上ノ債權者ニ辨濟スルコトヲ要ス債務ニ付テハ前述セル如ク債務ノ引受ハ我民法ノ認メサル所ナルヲ以テ其結果トシテ債權者ハ直接ニ讓受人ニ對シ債務ノ辨濟ヲ求ムルコトヲ得ス但讓受人カ讓渡人ニ代リテ債務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニ於テハ民法第五百三十七條乃至第五百三十九條ノ適用アルモノト信ス可キ也

營業譲渡ノ外ニ獨逸又ハ佛蘭西ノ學者ハ營業ノ用益賣入又ハ貸貸ニ付テ論スル者アリ又獨逸新商法ノ如キハ營業譲渡ノ規定ハ之ヲ用益權貸借其他ノ類似シタル關係ニ基キ營業ヲ引受タル場合ニ準用スヘキ旨ノ規定ヲ爲シ又手形雖モ用益權ハ我法律ノ認ムル所ニ非ス又前述ノ如ク營業トハ一ノ權利ノ客體

ニ非タルヲ以テ一括シテ其上ニ質權ヲ設定スルコトハ我民法ノ許ス所ニ非スト信ス唯營業ノ貸借ハ勿論民法ノ所謂貸借トシテ之ヲ看ルコトハ得ズト雖モ營業上ニ常用セラルル物ニ關スル貸借消費貸借等ヲ併セタル一種ノ無名契約トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ト信ス其詳細ハ略ハ營業ノ譲渡ニ關シテ述ヘタル所ト類似スルヲ以テ之ヲ略ス

第三節 營業所

第一 營業所ノ意義

營業所トハ商人ノ營業ノ本據ヲ謂フ民法ニ於テハ各人生活ノ本據ヲ以テ其住所ト定ム(民法第二一條參照商法)營業所ニ付テ此ノ如キ定義ヲ下サスト雖モ生活ノ本據ニ對シテ營業ノ本據ヲ以テ營業所ナリト論スルヲ適當ナリト信ス(「アール・ハーン」「ペーレンド」)故ニ住所ト營業所トハ略シテモ當ニ所在地ヲ異ニスルモノニ非ス或ハ二者同所ニ併合セラルルコトアリ我國ニ於テハ殊ニ其併合セラルルモノ多シトス又會社ニ在リテハ營業所以外ニ住所ナキモノ

ナリ。前記ノ如ク人格ヲ有セザルヲ以テ營業所ニ營業目録ノ住所ニ非ス商人ノ營業ノ本據タルニ止マルモノナリ。又營業ト云フモノハ營業所タルヲ爲スコトヲ謂フモノナルヲ以テ商行爲ノ業トスル所ニ非ズレハ營業所タルヲ得ス。故ニ商人ノ工場倉庫貨物積卸所ノ如キハ商行爲ヲ爲スノ業トスルニ非ズルヲ通常ト爲スカ故ニ此等ノ場所ハ通常營業所ト稱スルコト得ル。本題ニ於テ此等商人ハ前述ノ如ク同時ニ種種ノ營業ヲ爲スコトヲ得ルカ故ニ各種ノ營業ニ付テ同時ニ數箇ノ營業所ヲ有スルコトヲ得。此場合ニ於テハ各營業所ノ間ニ何等ノ關係ナシト雖モ一ノ營業ノ爲メニ許多ノ營業所ヲ有スル場合ハ其相互ノ間ニ主從ノ關係ヲ生ス。此場合ニ於テハ主タルモノヲ本店ト謂ヒ從タルモノヲ支店ト謂フ。支店ハ一營業ノ目的タル商行爲ヲ爲ス場所ナラザルハ商行爲ヲ爲ス場所ニ非ズル工場倉庫等ノ支店タルコト能ハズ。又ハ既ニ述ベタル所ノ如ク尙モ營業ニ附隨スル商行爲ヲ爲スニ過クザル場所ノ如ク商行爲ノ媒介ヲ爲ス場所例ニヤ代理店ノ如クハ支店タルコトヲ得。然レモ此等營業ノ目的タル

總テ商行爲ヲ爲ス支店ニ於テ行ハル所コトヲ必要トセズ。コトハ商業登記第三九頁(ビシナル)株式會社法第六六頁(二)本店ト同一ノ主人ヲ持タルヘカラス是レ殆ト當然ノ事ニシテ別ニ説明ヲ要セズ。雖モ我國ニ於テハ支店ノ名義ヲ有シ而モ異ナル主人ノ下ニアルモノアリ。殊ニ注意スルコトヲ要ス。支店ハ多少ノ獨立ヲ有セタルヘカラス。獨逸帝國高等商事裁判所第二二卷第二八三頁支店ハ營業所ニシテ營業所ハ營業ノ本據タルヲ以テ獨立シタル存在ヲ必要トス。(獨逸帝國裁判所民事判決例集第七卷第三二四頁故ニ本店ノ指揮ヲ受テ行ハルモノナルヘカラス。獨逸帝國高等商事裁判所第四卷第四〇二頁(ビシナル)本店ノ營業ハ消滅スト雖モ獨立シテ營業ヲ保護シ得ル程度ニ於ケル組織ヲ要スト。論セリ。同氏商法教科書第二二四頁例ハ鐵道停車場ノ如キハ獨立ノ營業所ト謂フコトヲ得ナルヲ以テ鐵道會社ノ支店ニ非ス。獨逸帝國裁判所民事判決例集第二卷第三九〇頁同國高等商事裁判所判決錄第一四卷第四〇二頁(ハートン)第二一條第一四註(スタウブ)第一三條第三註(ベトレス)第二三四頁第二三註等此點ニ於テ支店ハ分店又ハ出張所ト異ナルト雖モ支店タルト否トハ必

- スシモ其名稱ニ依リテ區別スルコトヲ得ス支店ノ名アリテ出張所タルニ過キ
タルコトアリ又出張所ト稱シテ而モ其實支店ナルモノアリ獨逸帝國商事裁判
所判決錄第一四卷第四〇一頁第一七卷第三一二頁、ビシナル第六七頁、レシ
ド(第二三四頁第二三註等)(四)支店ハ本店ノ所在地ト異ナル地域ニ在ルコト
ヲ要ストハ獨逸商法ノ解釋論トシテ通常唱ヘラル學說ナリト雖モ我商法
解釋上其必要ナシト信ス故ニ第十條ノ如キモ本店ト支店トカ其所在地ヲ異
スル通常ノ場合ヲ豫想シテ規定シタルモノナリト解シテ可ナルヘシ又商號ハ
本店ト同一ナルコトヲ要セス唯會社ノ場合ニ在リテハ支店ノ商號ト同一ナル
コトヲ要スト信ス(リング株式會社法第六八頁) 獨逸帝國商事裁判所判決錄
支店カ本店ニ對シテ多少ノ獨立ヲ有スル營業所ナル效果トシテ法律ハ支店ニ
關シテ次ノ規定ヲ爲セリ
- (一) 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記
スルコトヲ要ス(第一〇條第五一條第五二條第九九條第一四一條參照)
- (二) 商人ハ支店ノ業務ノミニ關スル支配人ヲ置クコトヲ得ヘキモノナルヲ以

テ商法ハ支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所
在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要スト規定セリ(第三一條)

(三) 支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ債務ノ履行ハ其支店ニ於テ之ヲ爲スコ
トヲ要ス(第二七八條第三項參照)商法ノ明文ニハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス
トアリ其用語不穩當ナルヲ以テ支店ハ營業所ニ非タル如キ觀アリト雖モ第九
條第十條等ノ規定ヨリ之ヲ見レハ法律ハ支店モ亦營業所ナリト看タルモノナ
リト謂ハサルヘカラス即チ第九條ノ規定ハ支店ニ於ケル登記ニ付テ亦適用ス
ルモノト信ス

第二、營業所ノ法律上ノ效力

營業所ハ商人ノ營業ノ本據ナルヲ以テ商人ハ營業所ニ於テ其營業ヲ爲スモノ
ナリ而シテ法律ハ之ニ如何ナル效力ヲ與ヘタルヤ現行法ニ依リテ之ヲ舉ルハ
左ノ如シ

(一) 管轄裁判所ヲ定ム直接ニ取引ヲ爲ス店舗ヲ有スル者ニ對シテハ其店舗
所在地ノ裁判所ニ其營業ニ關スル訴ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法第一六條參照)

- 又會社ノ裁判籍ハ其所在地ニ依テ定マレ而シテ此所在地ハ會社ノ營業所ノ所在地ナリ(同上第一四條參照)
- (二) 債務履行ノ場所ヲ定ム 商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スヘキ場所カ商行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ定ムルナリシトキハ特定物ノ引渡ノ外ハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス指圖債權無記名債權ノ辨濟ハ債務者ノ現時ノ營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(第二七八條參照)
- (三) 營業所ハ書類送達ノ場所ヲ定ム 民事訴訟法第四百十七條ヲ參照セラルヘシ
- (四) 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニ呈示拒絕證書作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(第四四二條參照)
- (五) 商業登記ハ商人ノ營業所所在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(第九條參照)

第六章 商業登記

一、商人ノ權利義務ニ關スル事項ハ其營業所所在地ノ裁判所ニ屬スルモノナリ

信用ハ商人ノ神髓ナリ信用力クシテハ商業ノ發達ヲ得テ望ムヘカラス而シテ信用ハ事實ノ真相ヲ明知スルニ因リテ生ス然ルニ商人カ其營業所ニ對シテ繼續シテ取引ヲ爲スコトヲ目的トスルカ故ニ商人ニ關スル法律關係ハ或程度マデハ一般世人ニ公示セシメサレハ之ニ信用ヲ得セシムルコトヲ得ヌ又他方ニ於テハ商人ニ關スル法律關係ヲ公示セシムルハ之ヲ取引ヲ爲ス所ノ公衆ヲ保護シ不測ノ損害ヲ被ルコトオカシムル爲メモ亦必要ナリ是レ進步シタル商法カ商業登記ノ制度ヲ設ケタル所以ナリ

羅馬法ニ於テ商店ニ一定ノ看板ヲ掲ゲルヘキコトヲ命シタル當時ノ法文ノ條スヘキモノアリ(ペーレン第二二七頁參照)其他貼札引札看板等ニ依リ商人カ自己ノ營業ノ狀態ヲ公示スルハ古來各國慣習ノ一致スル所ナリ其後中古商人團體ノ起ルニ及ビ組合名稱ノ制ヲ生シ此制度ハ一般國法ニ認ムル所ナリ爲

茲ニ今日ノ商業登記ノ制度ニ進化セリ現今商法中ニ商業登記ニ付テ一般ノ規定ヲ爲スモテノ舉ハ獨逸商法其他埃太利現行商法第十二條乃至第十四條匈牙利商法第七條乃至第九條西班牙商法第十六條乃至第三十二條獨逸新商法第八條乃至第十六條等ニシテ佛蘭西白耳義和蘭伊太利等ノ諸國法ハ各條ノ事項ニ關シテハ之カ規定ヲ爲スト雖モ一般ノ規定ヲ設ケス我舊法第十八條乃至第二十二條ハ商業登記ニ關スル一般ノ規定ヲ爲シタリト雖モ多クノ手續ニ關スル條項ニ過キス新商法ハ此等ノ手續ニ關スル規定ハ非訟事件手續法ニ譲リタリ

茲ニ注意スヘキハ船舶ニ關スル登記ハ特別法ヲ以テ定メタルコトニシテ第五四〇條第五四一條參照明治三十二年勅令第二百七十號船舶登記規則アリ故ニ船舶登記ハ商業登記ニ非ス西班牙商法第二十二條ニ依ルハ船舶登記ハ商業登記ノ一部ト爲スト雖モ船舶登記ハ事ロ不動產登記ニ類スルヲ以テ之ヲ特別法ニ讓ルヲ妥當ナリトス故ニ獨逸ニ於テモ船舶登記ハ千八百九十九年六月二十二日ノ特別法ヲ以テ之ヲ規定セリ

船舶登記ノ外ニ登記ノ名稱ヲ有シ商業登記ニ非サルモノヲ舉ケルハ不動產登記水代借地登記夫婦財產契約登記身分登記及ヒ戶籍登記アリ產業組合登記相互保險會社登記外國相互保險會社登記法人登記外國法人登記ノ如キハ商業登記ニ類似スト雖モ商業登記ニ非ス此等ノ登記ト商業登記ノ差異ニ至リテハ總錄ヲ生スルノ處アルヲ以テ別ニ說明ヲ爲ナス

尙ホ一言スヘキコトハ凡テ登記ヲ受クル者ハ登録稅ヲ納メタルヘカラス是レ亦說明ヲ略スト雖モ明治二十九年法律第二十七號登録稅法同三十二年法律第八十三號ヲ以テ一部ヲ改正セリ第六條及ヒ同條ノ二ニ詳細ノ規定アリ就テ參照セラルヘシ

第一節 登記スヘキ事項

登記スヘキ事項ニハ必ス登記スルコトヲ要スル事項即チ絕對的登記事項アリ又單ニ登記スルコトヲ得ルニ過キサル事項即チ相對的登記事項アリ登記スルハ事項ハ概テ前者ニ屬スト雖モ商號ノ登記ノ如キハ之ヲ爲スコトヲ得ルニ過

キサルモノトス而シテ此等ノ事項ハ凡テ法律ノ明文ヲ以テ定ムル所ナリ故
 第九條ニ「本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項云云」ト規定シタル事項以
 外ノ事項ハ之ヲ登記スルコトヲ得サルヲミナラス若シ誤リテ之ヲ登記シタル
 トキト雖モ何等ノ效力ヲ生スルコトナシトス獨逸舊商法ノ如キモ同シ「本法
 ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項」云云ト規定セシカ其新商法カ之ヲ刪除シタルハ
 當然ノ事項ナルカ故ヲ以テニシテ決シテ反對ノ主義ヲ採リタルモノニ非ス「ス
 タツ」商法註釋第八五頁「五」項六「同」條「二」項「同」條「三」項「同」條
 登記スヘキ事項ハ之ヲ分テ「一般ノ商人ニ關スル事項」「箇ノ商人ニ關スル事
 項」及「社會社ニ關スル事項」三種ニ區別スルコトヲ得既ニ述ヘタル如ク登記
 係リテ商人ニ關スル事項ヲ公示セシムルハ商人ヲシテ信用ヲ得セシメントス
 ルト同時ニ之ヲ取引ヲ爲ス第三者ノ利益ヲ保護セシムルニ在リ故ニ第三
 條ヲ保護スルノ目的ヨリ觀察スルトキハ商人ノ總テノ關係ヲ公示セシムルニ如
 クハナシト雖モ此ノ如キニ却テ商人ノ信用ヲ害スルコトアルカ又ハ其營業上
 ノ秘密ヲ暴露シテ其利益ヲ害スルノ虞アリト謂ハサルヘカラス故ニ法律ハ其

中庸ヲ採リ商人ノ營業上ノ秘密ニ涉ルコトナク又其信用ヲ毀損スルハ眞ナキ
 事項ニシテ「一般ノ公衆ニ利害ノ關係ヲ及ボス」ヘキ事項ハ成ルベク之ヲ登記セ
 シテ其營業ノ内部ノ狀態ニ關スル事項ハ「一般公衆」ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有
 スルモノノ外ハ之ヲ登記セシムタルコトトモリ自然ノ商人ニ關シテ登記
 スヘキ事項少ナク會社ニ關シテ多キ此理由ニ基クモノナリ今登記スヘキ事
 項ニ關スル條文ヲ舉クレハ「一般商人ニ關シタル商號及ヒ支配人ニ關スル登記
 アリ」(第一九條乃至第二二條第二四條第三條)「箇ノ商人ニ關シタル營業
 所」(第五條第五條及ヒ第七條)「未成年者妻後見人登記アリ」(會社ニ關シテ
 設立解散清算ノ登記ヲ始トシ資本増加社債募集本店又ハ支店ノ移轉ニ關スル
 登記及ヒ外國會社ニ關スル登記等アリ此等ノ説明ハ總テ之ヲ各本條ノ規定ニ
 讓ラントス「(一) 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記
 登記スヘキ事項ニ付テ二ノ一般ノ規定ヲ爲シタルヲ以テ左ニ之ヲ説明セン」
 (一) 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記

スルコトヲ要ス(第一〇條)惟本條ノ例外ハ支配人ノ選任ニ關スル登記ニシテ其
登記ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ニ於テ登記スルヲ以テ足ルモノナリ(第三一
條)獨逸商法第十三條ニハ本店ニ於テ既ニ登記シタルコトヲ證スルニ非テレハ
支店ニ於テハ登記ヲ爲スコトヲ許サスト雖モ我商法第十條ハ本店ノ所在地ニ
於テ登記スヘキ事項云云ト規定シタルヲ以テ本店ト支店トノ間ニ於ケル登記
ノ前後ハ解釋上ハ之ヲ問ハサルモノト謂フノ外ナカルヘシ
(二) 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項ヲ消滅シタルトキハ當事者ハ遲
滯ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス(第一五條)尙ホ商號及ヒ會社設立
ノ登記ニ關シテハ特別ノ規定アリ(第二四條第五三條第一四一條參照)
以上述ヘタル所ノ登記スヘキ事項ニ關スル規定中ニ於テ一般ノ商人及ヒ自然
人タル商人ニ關スル規定ニハ登記スヘキ時期ニ付テ何等ノ定ヲ爲ササルヲ常
トスト雖モ會社ニ關スル規定ニハ必ス之カ規定ヲ爲シ事實ノ生シタル時又ハ
其通知ノ到達シタル時ヨリ起算シ二週間内ニ之ヲ爲スヘシト規定シ(第五一條
第五二條第五三條第七六條第一〇七條第一四一條第二五六條參照)又ハ遲滯ナ

ク之カ登記ヲ爲スヘシト規定ス又會社ニ付テハ登記スヘキ事項ヲ登記セサル
トキハ制裁アリテ發起人、業務執行社員、取締役、外國會社ノ代表社員、監査役又ハ
清算人カ之ヲ怠リタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラルト雖モ
自然人タル商人カ怠リタル場合ニハ此ノ如キ制裁ナシ(第二六一條參照)是レ自
然人タル商人ニ關スル登記ハ事ニ其者ノ爲メニ爲スモノナルヲ以テ縱令法律
カ絕對的ニ登記スヘキモノト定ムト雖モ之ヲ登記セサルカ爲メニ社會ノ秩序
ニ危害ヲ及ホス虞ナキヲ以テ之ニ制裁ヲ科セサルモノナリ故ニ西班牙商法ニ
於テハ一般ニ自然人タル商人ニ對シテハ商業登記簿ニ登記スルト否トハ當事
者ノ任意トシ會社ニ對シテハ之ヲ登記スルコトヲ必要トシ唯登記セサル商人
ハ登記ヨリ生スル法律上ノ效果ニ依リテ利益ヲ享有スルコトナキノミナリト
定メタル制度トハ其趣旨ヲ異ニシ(西班牙商法第一七條第一八條參照)商號ノ登
記以外ノ登記ハ自然人タル商人ニ對シテモ同シク絕對的登記事項ナリト雖モ
之ヲ怠リタル場合ニ制裁ヲ科セサルニ過キス獨逸商法第十四條ノ如キハ一般
ニ登記ヲ怠リタル場合ニ於ケル制裁ヲ定メ即チ三百馬克以下ノ過料ニ處スヘ

第二節 登記ノ手續

登記ハ當事者ノ請求ニ因リテ之ヲ爲ス本則トス(第一五條第一九條非訟事件手續法第一四七條參照)唯破産ノ場合ニ於テ裁判所カ職權ヲ以テ登記ヲ爲スコトアルノミ(非訟事件手續法第一五二條第一五三條參照)登記ノ事務ハ商人ノ營業所在地ノ區裁判又ハ其出張所ニ於テ之ヲ爲ス之ヲ登記所ト謂フ(同法第九條第一三九條)登記ノ事務ヲ取扱フ者ハ區裁判所判事ニシテ之ヲ登記官吏ト謂フ而シテ登記官吏ハ申請書カ適法ナルトキハ之ニ從ヒテ登記スヘキ不適法ナルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スルモノニシテ當事者之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得非訟事件手續法第一五一條第二〇條乃至第二五條民事訴訟法第四五條及ヒ第四六六條參照)尙ホ登記ノ申請其他ノ手續ノ詳細ハ之ヲ略スヲ以テ非訟事件手續法第三編第三章及ヒ明治三十二年五月司法省令第十三號商業登記取扱手續ヲ參照セラルヘシ

管轄登記所ニ於テハ商業登記ヲ爲ス爲メ特ニ簿冊ヲ備フ之ヲ商業登記簿ト稱ス商業登記簿ニ十種アリ其登記簿ノ名稱ヲ見ルトキハ登記スヘキ事項ヲ推知スヘキヲ以テ之ヲ舉クレハ一商號登記簿二未成年登記簿三妻登記簿四後見人登記簿五支配人登記簿六合名會社登記簿七合資會社登記簿八株式會社登記簿九株式合資會社登記簿十外國會社登記簿即チ是ナリ(第一五條第一九條參照)茲ニ一言注意スヘキハ登記官吏カ申請書ヲ受ケタル場合ニ於テ如何ナル程度マデ之ヲ審査スヘキモノナルカノ點是ナリ即チ詳言スレハ登記官吏ハ申請書カ形式上適法ナルヤヲ審査スルニ止マルカ所謂形式の審査主義(コンセンズプリンチプ)又ハ其實質ニ入リテ其申請ノ眞偽ヲ審査スルコトヲ要スルカ(所謂實質的審査主義)ガリヲトフリシチ(一)ノ問題ナリ元來登記ノ制度ハ當事者ノ申請シタル事項ノ公示ヲ目的トスルモノニシテ其法律關係ノ表示自體ニ非ス故ニ登記ハ當事者カ其登記シタル事項ニ付テ申請ヲ爲セタルコトヲ證スルニ止マリ其事項自體ノ真正ナルコトヲ證スルモノニ非ス(獨逸帝國裁判所刑事判決例集第一八卷第一八〇頁同民事判決例集第一卷第二四三頁參照)故ニ登

記官吏ハ登記ノ申請カ形式上ニ於テ商法又ハ非訟事件手續法等ノ規定ニ遵スルヤ否ヤヲ審査スルヲ以テ足ルモノト謂フヘキカ如ク而シテ商號登記ニ關シテ商法ニ於テ他人カ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一營業ヲ爲メニ之ヲ登記スルコトヲ得スト規定シタルニ拘ハラズ商法第一九條非訟事件手續法ニ於テハ商號ノ登記ハ同市町村内ニ於テ同一營業ヲ爲メニ他人カ登記シタルモノト判然區別シ得ルトキニ非テレハ之ヲ爲スコトヲ得スト規定セルヲ以テ觀レハ非訟事件手續法第一五八條此場合ノミ特ニ實質的ノ審査ヲ爲スヘキモノト定メタルカ如ク觀察スルコトヲ得ルカ如シ然ラハ他ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ申請ノ事項カ事實上眞實ナラサルコトヲ知リタル場合ニ於テモ尙ホ形式上ノ不備ナキトキハ之ヲ登記スヘキモノナルヤ予ハ此場合ニハ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノト信ス即チ此ノ如キ申請ハ非訟事件手續法ノ所謂商法ノ規定ニ從ヘルモノナリト謂フコトヲ得タルノミナラス登記官吏ハ虛偽ノ申請ニ對シテモ尙ホ之ヲ登記シ之ヲ公示シ之ニ法律上ノ效果ヲ與フヘキモノト解スル一ハノ般條理ニ反スルヲ以テナリ(シュルツエ、ゲルソフ)商業登記及ヒ意匠登錄

ニ關シテ賣買當事者ノ雙方カ商人ナル場合ニ付キ例外規定ヲ爲シ買主ヲシテ其受取リタル物ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルノ義務ヲ負ハシメ此義務ヲ履行セタル場合ノ制裁トシテハ民法ニ因リテ付與セラレタル前記ノ契約解除又ハ代金ノ減額若クハ損害賠償ノ請求權ヲ失ハシムルコトト爲シタリ第二八八條前段是レ取引ヲ迅速ニ完結セシメ以テ其安全ヲ保護セントスルニ外ナラス引渡ヲ受ケタル物件ヲ検査セス若クハ検査スルモ何等ノ通告ヲ爲サズシテ時日經過ノ後突然之ニ關スル故障ノ申出ヲ爲スカ如キハ賣主ノ迷惑殊ニ甚シキモノアリ況ヤ物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足ニ關スル故障ニ付テハ時日ヲ經過スルニ從ヒ其責任ノ歸屬ヲ判別スルニ大ナル困難ヲ感スルノ事情アルニ於テヤ賣買效力ヲ永ク不確定ノ狀態ニ存續セシムルハ賣主ニ不安ノ念ヲ撫カシメ大ニ取引ノ安全ヲ阻害スルノ不都合アリ殊ニ商人ハ相互ニ誠實ト信用トヲ旨トシテ取引スルモノナルヲ以テ之ニ對シテ斯ル規定ヲ爲スモ敢テ不當ナリト謂フヲ得ス之ヲ實際ニ徵スルモ商人ハ此手續ニ慣ラサレ居ルヲ以テ之

カ爲メ意外ノ損失ヲ受タルコトヲカスルハ其ノ事ニ當リ得ルニ付モ其ノ故障ヲ發見シ得ル
前ニ述ヘタル所引渡ヲ受ケタル物件ヲ検査シテ直ニ其故障ヲ發見シ得ル
キ場合ニ關スル説明ナリ數量ノ不足ニ付テハ検査ニ依リテ容易ニ之ヲ發見シ
得ヘキカ故ニ法文ニハ直ニ其通知ヲ發スルコト規定タル外他ニ何等ノ規
定ヲ要セスト雖モ瑕疵ニ關スル故障ハ之ヲ其趣ヲ異ニス隠レタル瑕疵若クハ
時ノ經過スルニ從ヒ其物ニ變狀ヲ來スルカ如キ瑕疵ニ在リテハ検査スレバ直
ニ之ヲ發見シ得ヘキニ非ス隨テ斯ル瑕疵ニ付テハ尙ホ他ノ疑問ヲ決定ス
ルノ必要アリ即チ斯ル場合ニ於テハ賣主ハ前陳セル民法ノ規定ニ依リ買主カ
其瑕疵ヲ發見スルニ至ルマテ永久ニ其擔保義務ヲ免レ得タルカノ疑問ヲ生ス
第二百八十八條第一項末段ノ規定ハ之ヲ解決シテ六箇月内ニ其瑕疵ヲ發見ス
ルコトヲ要スト爲レ且之ヲ發見シタルトキ直ニ買主ニ對シテ其通知ヲ發
スヘシト爲シタリ瑕疵ノ性質如何ニ因リタル或ハ此發見期間ハ短キニ失スル
ノ虞ナシトモナルモ取引ノ安全ヲ保護スル趣旨ヲ貫徹スルカ爲メニハ亦ダ已
ムヲ得ナルナリ事案ノ發見ハ商人ニハ聯合ニ付テ附從該款ニ從テ買主マデ

此ノ如ク買主ニ検査通告ノ義務ヲ負擔セシムルハ畢竟永キ期間取引ヲ結了セ
タルヨリ生スヘキ賣主ノ不慮ノ損害ヲ豫防セントスルニ外ナラス故ニ賣主ニ
惡意アリタル場合例ヘハ目的物ニ瑕疵アルコトヲ知リ又ハ其數量ニ不足アル
コトヲ知リテ引渡ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ本條ノ適用ナシ第二百八十八條第二
項知ラナレハコン通知ヲ受タルノ必要モ生スルナレ知リテ尙ホ通知ヲ要スト
ハ何等ノ意味ナキコトナルノミナラス假ニ斯ル場合ニモ尙ホ本條ノ適用アリ
トモハ遂ニ惡意ノ賣主カ萬一ニ僥倖シテ不正ノ引渡ヲ爲スノ弊害ヲ生シ却テ
取引ノ安全ヲ害スルニ至ルヘケレハナリ買主ハ其瑕疵ノ發見ハ其本來ニ於テ
商法ノ規定スル所ハ検査通告ノ特別義務ニ關スル事柄ノミナリ買主カ此義務
ヲ履行シタル結果ニ付テハ民法ノ規定カ適用セラル隨テ賣主ハ其本來ニ於テ
擔保義務ヲ負擔スルノ結果トシテ其瑕疵又ハ數量不足ノ爲メニ買主ヨリ契約
ヲ解除セラルルコトアルヘシ契約解除ノ結果ハ賣主ハ目的物ノ危險ヲ負擔シ
買主ハ強テ之ヲ保管シ又ハ供託スルノ義務ナキヲ民法上ノ原則トシ然レトモ
商法ハ斯ル場合ニハ買主ハ必ズ其物ヲ保管スルカ又ハ供託スルコトヲ要ス

爲シ賣主ノ指圖ヲ待タズシテ還ニ之ヲ返還シ得タルモノヲ爲シタリ其保管費用ハ勿論賣主ノ負擔タルナリ(第二八九條前段)蓋シ商人ハ互ニ其信用ヲ重スヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ之ニ保管ノ義務ヲ負ハシムルノ至當ナルハ勿論商ノ實際ニ於テハ商人ハ其送付シタル物品カ買主ニ依リテ拒絶セララルコトアリトスルモ成ルヘク買主ノ近傍ニ於テ之ヲ賣却シ以テ送還ノ費用ト手數トヲ避ケント努ムルヲ普通ノ狀態トスレハナリ而シテ斯ル場合ニ於テ若シ其物品ニシテ滅失又ハ毀損ノ虞アルモノナルトキニハ買主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ目的物ノ保管又ハ供託ニ代ヘテ其競賣代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要シ且通滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス(第二八九條第一項但書及ヒ第二項)此競賣ハ單ニ賣主ノ利益ノ爲メニ存スルモノニシテ第二百八十六條ノ競賣トハ少シク其事情ヲ異ニシ居ルヲ以テ本條ハ特ニ其競賣ノ必要如何ヲ査定セシムルカ爲メ裁判所ヲシテ之ニ干與セシムルノ方針ヲ執リタルナリ(一)賣主ハ本條ノ規定ニ依リテ其競賣ヲ爲シ得ル場合其物ニ付テ滅失(本條ノ規定ニ依レハ買主カ目的物ノ競賣ヲ爲シ得ル場合其物ニ付テ滅失

毀損ノ虞アリ且裁判所ノ許可ヲ得タルトキニ限ラルルカ如シト雖モ買主カ既ニ之ニ對スル代金ヲ支拂ヒ居リタル場合ニハ目的物ノ性質如何ヲ問ハス且裁判所ノ許可ヲ要セスシテ之カ競賣ヲ請求シ其代價ヲ以テ返還ヲ受クヘキ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス何トナレハ動産又ハ不動産ノ賣買ニハ先取特權カ屬ノラレ居ルコト當テ述ヘタル如クニシテ而シテ先取特權ノ效力ニ付テハ民法第三百四十一條ニ於テ抵當權ニ關スル規定ヲ之ニ準用シ居ルノ結果民法第三百八十七條ノ規定カ準用セラレ斯ル場合ニハ買主ハ其目的物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得レハナリ(二)以上述ヘタル保管又ハ供託ノ義務ニ關スル規定ハ賣買當事者雙方ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所カ同一市町村内ニ在ル場合ニハ其適用ナシ(第二八九條第三項)蓋シ斯ル場合ニ於テハ賣主ハ賣買解除ノ通知ニ接スルヤ直チ之ヲ引取ルカ若クハ其保管ニ對スル相當ノ處置ヲ施スニ於テ何等ノ支障ナケレハナリ茲ニ所謂同一ノ市町村トハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ從來ノ町村其他之ニ類スル區域ヲ謂ヒ東京京都及ヒ大阪ノ三市ニ在リテハ

其各區ヲ指スモノトス(商法施行法第一四條參照)又ハ其數量ニ不足アルヨリ契約ヲ解除シタル場合ニ止マラスシテ其引渡ヲ受ケタル物品カ注文品ト相違シタル場合又ハ其數量ニ超過アリタル場合ニモ其相違シタル物又ハ其超過シタル部分ニ付テ等シク之ヲ保管シ又ハ供託スルヲ責任アルナリ個ヨリ此場合ト雖モ其責任ハ隔地取引ニ限ラレ同地賣買ニハ其適用ナシ(第二九〇條其理由ハ何レモ前陳シタルト同一ノ趣旨ニ出テタルナリ)

第三 賣買契約ノ解除ニ關スル特別規定
買主ハ其目的物ヲ受領セザルニ至ラズ其契約ハ其種類ノ如何ヲ問ハズ不履行ニ因リテ解除セラルベキ運命ヲ有ス然レトモ當事者ノ一方カ債務ヲ履行セザレハトテ之カ爲メ當然解除セラルベキ非ス原則トシタル相手方ニ解除權ヲ生スルニ止マリ其契約ヲ解除スル時之ヲ解除セシメテ其履行ヲ爲サシムルトハ一ニ相手方ヲ自由意思ニ因リテ決定セラルルナリ今其解除ヲ爲サシムル場合ニ付テ言ハハ解除ヲ爲スニハ一定の方法アリ相手方ハ必ズ不履行者ニ對シ其意思ヲ表示スルハ手續ヲ爲ササル

方ラズ然ラザレバ解除ノ效力ヲ生スルコトナシ(民法第五四〇條參照)又其解除ヲ爲ササル場合ニ付テ言ハハ契約ハ依然トシテ存續スルハ勿論ナリト雖モ之ニハ解除權ノ附著スルアリテ其解除權ハ時效ニ罹ラサル限ハ何時ニテモ相手方ハ之ヲ行使スルコトヲ得ベク之ヲ消滅セシメンニハ唯不履行者カ相當ノ期間ヲ定メテ其期間内ニ解除ヲ爲スヤ否ヤヲ確定スベキ旨ノ催告ヲ爲スノ一方法アルノミ不履行者ニ取リテハ甚ダ迷惑ヲ感スルナリ(民法第五四七條參照)此原則ハ總テノ契約ノ解除ヲ支配スルカ故ニ民法第五百四十二條ノ規定ニ依リテ契約ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定メ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキニ其相手方カ有スル解除權ニ付テモ均シタ其適用アリ然ルニ商法ハ第二百八十七條ニ於テ之ニ對スル例外規定ヲ設ケ此種ノ契約カ賣買ニ關シテ爲サレタル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其辨濟期ヲ經過シタルトキニハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ賣買ノ解除ヲ爲シタルモノト看做シタリ即チ一面

ニ於テハ相手方カ不履行者ニ對シテ爲スヘキ契約解除ノ意思表示ヲ不必要トシテ其手數ヲ省キ他面ニ於テハ不履行者ノ爲メニ特ニ相手方ニ對シテ催告ヲ爲シテ解除ヲ確メストモ相手方ヨリ直チニ履行ノ請求ヲ受ケタル限ハ契約ハ當然解除セラレタルモノト看做シ得ルノ便宜ヲ與ヘタリ蓋シ手續ノ煩雜ナルヲ取引ノ永ク結了セザルトハ其ニ商取引ノ觀念ト相容レザルコト屢述ヘタルカ如クニシテ本問ノ場合ニ不履行者ノ爲メニ存スル催告方法ノ如キモ相當ノ期間内ハ相手方ノ難答ヲ待ツニ非サレハ其目的物ヲ處分シ得ザルモノナルヲ以テ相場ノ變動常ナクシテ臨機ノ處分ヲ要スル商品ニ付テハ其效用極メテ薄ク到底商行爲ノ當事者ヲ保護スルニ足ラザルヲ以テナリ其レモ一般ノ賣買契約ナラハ格別ナレトモ斯ル特種ノ性質ヲ有スル賣買ニ在リテハ本條ノ如ク規定スルモ取テ相手方ニ不便ヲ感セシムルモノトナカレハシ事本意ヲ達スル所ナラ

第三章 交互計算

交互計算ハ其趣旨數多ノ取引ヨリ生スル債權債務ヲ取引毎ニ計算セズ期間ヲ

定メテ一纏メニ其計算ヲ爲サントスルニ在リテ商業社會ニ最モ便宜ヲ與フルモノナリ相互ノ間ニ平常斷ヘズ取引ヲ爲スノ關係存スル場合ニ在リテハ其取引ニ伴ヒ幾多ノ債權債務ノ關係ヲ發生シ或取引ニ因リテ甲カ乙ニ對シテ債權ヲ取得スル代リニ他ノ取引ニ於テハ却テ乙カ債權者ノ地位ニ立チ互ニ債權者ト爲リ債務者ト爲ルノ關係ヲ生スヘキナリ斯ル場合ニ於テハ其箇箇ノ取引ニ付キ一ニ計算ヲ爲サンヨリハ寧ロ或期間ヲ定メ其期間内ニ發生スル相互ノ債權債務ヲ一括シテ其計算ヲ爲スノ當ニ煩雜ヲ避ケ得ルノミナラス他ニ之ニ伴フ大ナル利益ヲ發見スルハ取テ難キニ非ス今其一斑ヲ云ヘハ各取引毎ニ計算ヲ爲スノ手數ト時間トヲ省キ隔地者間ノ取引ナラハ尙モ送金ノ費用ト危險トヲ免レ得ルノ便宜アルヘシ殊ニ此計算方法ニ依レハ一定ノ期間内ハ其債務ヲ履行スルニ及ハサルヲ以テ債務者ハ現金拂ニ追ハルルコトナク安シテ其實金ヲ他ノ事業ニ流用スルノ便宜ナリ而シテ互ニ債權者タリ債務者タルノ地位ニ立ツモノナルヲ以テ此大ナル便宜ハ當事者雙方ノ其ニ均シク受タル所ナキナリ當ニ當事者ノ爲メノミナラス資本ヲ間斷ナク運轉シ得セシムルヲ以テ商

第一節 交互計算ノ意義

交互計算ハ數多ノ債權債務カ當事者相互ノ間ニ連續シテ發生スル場合ニ其煩雜ナル關係ヲ簡單ニ且有益ニ整理スヘキ計算ノ一方法トシテ生シタルモノナ
ルコトハ前既ニ略ホ其説明ヲ爲シタリ我現行法ハ此交互計算ヲ以テ單ニ斯ル
場合ニ於ケル計算ノ一方法トシテ當事者カ任意ニ其意義ヲ定メ其效力ヲ決定
シ得ヘキモノト爲サヌ之ニ對シテ法律上特別ナル效力ヲ認メ豫メ其意義ヲ一
定シテ其成立ヲ特定ノ場合ニ限定シ以テ他ノ場合ニ在リテハ縱令當事者カ相
互ノ間ニ存スル債權債務ノ整理ニ付キ此交互計算ニ類似セル計算方法ヲ用
ルコトアルモ洪シテ茲ニ所謂交互計算ノ關係ヲ發生スルモノトナシトハ主義ヲ
採レリ此趣旨ニ基キ第二百九十一條ハ交互計算ノ定義ヲ揭ギ交互計算トハ商

人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スト規定セリ今之ヲ分析シテ説明セシム

第一 交互計算關係ハ諾成契約ニ因リテ發生スルモノナリ

交互計算ハ或債權ト反對債權トカ併存スル場合ニ雙方共實際ニ履行ヲ爲サズ相殺ニ依リテ之ヲ互消セシムルノ點ニ於テ民法上ノ相殺カ酷似スト雖モ相互ノ間ニハ自ラ差別ノ存スルアリテ民法上ノ相殺カ當時者ニ反對ノ意思表示ナキ限ハ一方ノ意思表示ノミニ因リテ行ハルベキモノナルニ反シ交互計算ノ關係ハ豫メ當事者間ニ之ニ關スル特約アルニ非サレハ決シテ存在スルコトナシ當事者相互ノ間ニ信用ノ存在スル場合ニ始メテ此關係ヲ發生スルニ至ルナリ蓋シ交互計算ハ民法上ノ相殺ノ如ク箇箇ノ債權債務ニ付キ相殺ヲ爲スニ非シシテ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲スモノナリ故ニ其期間内ニ在リテハ各箇ノ債權ハ履行期ニ到達スルモ隨意之ヲ主張シ得タルノ結果ヲ生シ當事者ノ澆滯ニ依リテハ蓋シ決シテ不便ト危險ヲ包含

スルモノナルヲ以テ相互ノ信用ニ因ルニ非サレハ到底此關係ヲ生シ得ヘキニ
非サレハナリ此ノ如ク交互計算ハ當事者相互ノ信用ニ基キ其合意ニ因リテ成
立スルモノナルコト並ニ其契約ハ敢テ書面ヲ必要トスルニ非シ明示ニテモ又
ハ默示ニテモ荷モ之ニ關スル意思表示アリト認ムルニキ場合ニ在リテハ直接ニ
成立スル諸成契約ナルコトハ前述シタル法文中約スルニ因リテ其效力ヲ生
ト規定セルニ徴シ一點ノ疑ヲ容レサル所ナリト雖モ其契約カ如何ナル種類ノ
モノニ屬スルヤニ付テハ法文ニ依リテ之ヲ決定スルコトヲ得ス否法文上ヨリ
スレハ事ロ交互計算契約ナル一種ノ契約ナリト説明スルヲ豫當ナリト信ス學
說ノ上ニ於テハ或ハ貸借關係ヲ生スト云フモ之ノミニテハ未タ交互計算ノ特
質ヲ發揮シ得サルヲ以テ或ハ之ニ他ノ數多ノ法律行為ヲ包含スト説キ或ハ
之ヲ以テ相殺ノ豫約ナリト論スル者アリ然レトモ以下順次説明セントスル交
互計算ノ性質ニ省ミハ事ロ之ヲ何レノ種類ニモ屬セサル特種ノ契約ナリト解
スルノ至當ナルコトヲ會得シ得ヘシ

第二 交互計算ハ平常取引關係ヲ有スル商人間又ハ商人ト非商人トノ間ニ於

テノミ成立スルモノナルヲ以テ相互ノ信用ニ因ルニ非サレハ到底此關係ヲ生シ得ヘキニ
外國ノ立法例舊商法モ亦然リニ於テハ當事者ノ誰タルヲ問ハス商取引ヨリ生
スル債權債務ニ付テハ廣ク交互計算ノ成立ヲ認ムト雖モ我現行商法ハ特ニ之
ヲ限定シテ當事者雙方カ商人ナルカ又ハ少クトモ其一方カ商人ナルコトヲ必
要トシ非商人間ニ於テハ經令之ニ類似ノ計算關係ヲ有スルモ之ヲ茲ニ所謂交
互計算ト認メストノ主義ヲ採用シタル所以ハ他ナシ前陳スルカ如ク交互計算
ハ畢竟當事者間ニ數多ノ債權債務ノ關係カ發生シ互ニ權利ヲ得義務ヲ負フコ
トヲ前提トシテ之ヲ簡便ニ計算スルノ煩雜ト不利益トヲ避ケンカ爲メニ起リ
タルモノナリ然ルニ非商人間ニ於テハ雙方共ニ取引ヲ營業トシテ行フモノニ
非サルヲ以テ互ニ債權者ト爲リ債務者ト爲ルヘキ數多ノ法律關係ヲ發生スル
コトナクシテ實際上交互計算ノ必要ヲ感スルコトナク偶ニ稀ニ其必要ヲ感シテ
此種ノ方法ヲ用フルモノアリトスルモ之ニ對シテハ本章ノ特別規定ヲ適用ス
ルノ必要ナク民法上ノ契約ニ關スル一般ノ規定ニ依リテ其相互ノ關係ヲ決定
セシムルヲ以テ足レリトシタルカハ商法ハ實ニ非商人間ニ交互計算ノ成立ヲ

認メタルノミナラス商人間又ハ商人ト商人ニ非タル者トノ間ニ於テモ雙方カ
平常斷ヘス取引ヲ爲スノ關係ヲ有セタル場合ニハ等シク交互計算ノ成立ヲ認
メス是レ皆同一ノ趣旨ニ出テタルモノナリ此ノ如ク繼續シタル取引關係ノ存
スルコトト交互計算ノ成立トハ離ルヘカラサル關係ヲ有スト雖モ此關係ノ存
在ニ基キテ一旦交互計算契約カ成立シタルトキハ其各箇ノ場合ニ於テハ事實
上必スシモ雙方ニ債權債務ノ關係ヲ生スルコトヲ必要トセス偶一定ノ期間内
ニ於テ當事者ノ一方カ債權ノミヲ取得シ他方カ債務ノミヲ負擔スルコトアリ
トスルモ之カ爲メニ交互計算ハ毫モ影響ヲ受クルコトナシ隨テ此場合ト雖モ
債權者ハ其期間ノ終了スルニ非サレハ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得サルハ
勿論其他交互計算ヨリ生スル效果ハ總テ此場合ニ適用アルモノト知ルヘシ
第三 交互計算ハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺
ヲ爲シ殘額ノ支拂ヲ爲スヲ以テ其目的トス
(4) 相殺ノ行ハルヘキ債權債務ハ一定ノ期間内ニ於テ生シタルモノナルコト
ヲ要ス交互計算關係ノ繼續期間ハ之ヲ一定スルノ必要ナシ一定セサルトキニ

ハ其契約ヲ解除セザル限ハ永續スヘキ點入ナクト雖モ相殺ヲ爲スヘキ期間
一定スルコトヲ要ス隨テ其期間内ノ取引ヨリ生シタル債權債務ニ非サレハ之
ヲ其期ノ交互計算ニ組入ルルコトヲ得ス此期間ハ當事者ノ任意ニ定メ得ヘキ
所ナルモ之ニ關シテ別段ノ意思表示ナキトキハ法律ハ六箇月ヲ以テ一期間ト
爲シタリ第二九三條蓋シ交互計算ハ數多ノ債權債務ヲ一括シテ差引計算スル
モノナルカ故ニ相殺ヲ爲スヘキ期間ハ當事者カ特ニ其好ム所ニ從ヒテ之ヲ定
メタル場合ハ其自由意思ニ放任スヘキハ勿論ナレトモ然ラサル場合ニ於テハ
短キニ失セハ交互計算ノ目的ヲ達セサルコトト爲リ長キニ失セハ取引度數ノ
重ルト共ニ計算ノ錯雜ヲ生スルノミナラス當事者ニ大ナル利害ノ關係ヲ及ホ
スヘキモノナルヲ以テ豫メ法律上相當ノ期間ヲ定メ置クノ必要アリ如何ナル
期間ヲ相當トスルヤハ問題ナリト雖モ商法ハ我國現時商況ノ便利ニ鑑ミ之ヲ
六箇月ト爲シタリ蓋シ交互計算ノ最も多ク行ハルルハ會社ニシテ我國ニ於テ
ハ會社ハ現今概テ六箇月ヲ以テ利益ノ配當ヲ爲スノ定ナルヲ以テ本間ノ期間
ヲ之ト一致セシムルコト極メテ便利ナリトハ草案者ノ説明スル所ナリ然ラハ

一定ノ期間内ノ取引ヨリ生シタル債權債務ナラハ如何ナル種類ノモノニテモ如何ナル狀況ニ在ルモノニテモ總テ之ヲ交互計算ニ組入ルルコトヲ得ルヤト云フニ然ラス交互計算ノ目的ハ債權債務ヲ相殺スルニ在ルカ故ニ自然之カ爲メニ又一ノ制限ヲ受ケ其債權債務ハ相殺ニ適スルモノナルコトヲ必要トス相殺ノ何タルヤハ民法ノ規定スル所ニシテ(民法第五〇五條以下參照其重ナル點ハ同種ノ目的ヲ有スル債權ナルコトト辨濟期ノ到來シタル債權ナルコトトヲ必要トスルニ在リ此條件ヲ缺キタルトキハ之ニ對シテ相殺ハ行ハレ得ヘキニ非ス法文ニ云云總額ニ付キ相殺ヲ爲シ云云トアルカ故ニ一定ノ期間内ニ生シタル債權債務ニテモ未タ辨濟期ノ到來セサルモノハ其期ノ交互計算ニ組入ルルノ不可ナルハ極メタ明瞭ナリト雖モ斯ル債權債務ハ次期ノ交互計算ニ組入ルルコトヲ得ルヤ否ヤ法文ニハ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務云云トアルカ故ニ斯ル債權債務ハ次期ノ相殺期間内ニ生シタルモノニ非ナルヲ以テ或ハ其組入ヲ爲シ得タルカ如キ觀ナキニ非スト雖モ交互計算ノ趣旨ニ顧ミレハ當然之ヲ組入レ得ルコト否事口其組入ヲ爲ササルヘカラサルコト殆ト疑

職務ノ執行ヨリ退去スヘキヤ否ヤニ付キ裁判ヲ受ケヘキモノナリ又除外ノ原因ノ有無ニ付キ疑アル場合就中當該判事又ハ他ノ判事ヨリ其事由ヲ申出アラタル場合ニ於テモ除外ノ原因ノ有無ニ關スル裁判ヲ爲スヘキモノナリ又除外ノ原因アリトスル裁判アリタルトキハ除外ノ原因アル判事ノ行爲ヲ始ヨリ無効ナリ之ニ反シテ忌避ノ原因アリトスル裁判アリタルトキハ忌避セラレタル判事ノ行爲ハ忌避ノ申請アリタル時ヨリ無効ト爲ル結果ヲ生スルモノナリ故ニ判事カ忌避セラレタルトキハ忌避ニ付キ裁判アルマデ一切ノ行爲ヲ避クヘキモノナリ然レトモ此規定ハ一ノ訓示の規定ニ外ナラサルカ故ニ判事カ此規定ニ反シテ訴訟行爲ヲ爲スモ忌避ノ申請ヲ不當ナリトスル裁判アリタル以上ハ其行爲ハ決シテ無効ニ非ス又忌避セラレタル判事ハ一切ノ行爲ヲ避クヘキモノナルモ猶豫スヘカラサル行爲ニ限り之ヲ爲スヘキモノナリ此規定モ亦一ノ訓示の規定ニシテ法律カ例外トシテ忌避セラレタル判事ヲシテ有效ニ訴訟行爲ヲ爲ス權限ヲ得セシメタルモノニ非ス故ニ忌避ノ申請ヲ正當ナリトスル裁判アリタル以上ハ縱令猶豫スヘカラサル行爲ト雖モ當然無効ト爲ルモ

第四款 裁判所ノ管轄

第一項 總論

茲ニ所謂裁判所トハ總テノ司法機關ヲ包括シタルモノナリ既ニ述ヘタルカ如ク法律ハ司法事務ノ性質ノ異ナルニ隨ヒ種類ノ司法機關ヲ設ケテ各異ナリタル權限ヲ有セシメタリ而シテ訴訟事件ハ其種類ヲ異ニシ其數モ亦限ナキモノナルヲ以テ同一ノ權限ヲ有スル數多ノ司法機關ヲ設ケ以テ訴訟事件ヲ分配スルノ必要アルモノナリ所謂裁判所ノ管轄ハ同一ノ權限ヲ有スル數多ノ司法機關ノ間ニ於ケル訴訟事件ノ分配ニ外ナラス而シテ訴訟事件ノ分配ヲ爲スニ當リテハ之ニ依リテ事務ノ敏捷ヲ圖リ合セテ當事者ノ利益ヲ顧ミナルベカラズ訴訟事件ノ種類ニ從ヒテ同一ノ權限ヲ有スル數多ノ司法機關ノ間ニ事件ヲ分配スルニ當リテハ訴訟ノ目的物ノ種類、當事者ノ如何又ハ訴訟物ノ價額等ニ依ルコトヲ得ルモノナリ而シテ訴訟事件ノ種類ニ從ヒ同一ノ權限ヲ有スル司法

機關ノ間ニ訴訟事件ヲ分配セントスルニハ事件ノ種類ニ應ジテ其司法機關ノ組織ヲ異ニスルヲ適當トシ隨テ訴訟事件ノ種類ニ應ジテ訴訟事件ヲ分配スルモノハ同一ノ權限ヲ有スル組織ヲ異ニスル數多ノ司法機關ヲ設ケル必要アリ故ニ訴訟事件ノ性質ニ基テ事件ノ分配ハ畢竟同一ノ權限ヲ有シ組織ヲ異ニスル數多ノ司法機關ノ間ニ於ケル事務ノ分配タル結果ヲ生ズ地方裁判所民事部及ヒ區裁判所民事部別々即チ訴訟事件ノ性質ニ基テ事件ノ分配ニ伴フ裁判所ノ組織ニ關スル區別ニ外ナラス又區裁判所民事部及ヒ區裁判所民事部若シテ訴訟事件ノ數ニ應シテ同一ノ權限ヲ有スル數多ノ司法機關ノ間ニ事件ヲ分配スルニハ其司法機關ノ組織ヲ異ニスル必要ナシ而シテ此方法ニ據リテ事件ノ分配ヲ爲スニ當リテハ一定ノ權限ヲ有スル數多ノ司法機關ヲ各地方ニ置キ之ニ一定ノ區域ヲ與ヘ其區域内ニ屬スル事件ヲ取扱ハシムルヲ以テ最も便利トス蓋シ此方法ニ依ルトキハ適當ニ事件ヲ分配スルコトヲ得ルノミナラス當事者ノ爲メ最も便利ナルカ故ナリ現行法ハ訴訟事件ノ數ニ應シテ事件ヲ分配スルニ當リテ此方法ヲ採用セリ故ニ訴訟事件ノ數ニ應スル事件ノ分配ハ畢竟土

地ノ區域ニ基キ事件ノ分配ニ外ナシ。而シテ土地ノ區域ニ基キ事件ノ分配ニ同一ノ權限及組織ヲ有スル多數ノ司法機關ニ於ケル事件ノ分配ハ前記ノ如ク前記ノ如ク依リテ自ラ明カナリ。而シテ或訴訟事件或司法機關ノ土地ノ區域内ニ屬スルモノト認ムルハ相互ノ間ニ聯絡力カバヘラズ。訴訟事件ト裁判所ノ土地ノ區域トノ聯絡ヲ生ズル事情ニ之ヲ名ケテ裁判權ト稱ス。或司法機關カ訴訟事件分配ノ規定ニ從ヒ或特定ノ訴訟事件ニ付キ其權限ヲ行フコトヲ得ル場合ニ於テハ其事件ニ關スル管轄ヲ有スルモノナリ。而シテ事件ノ分配ハ訴訟事件ノ種類及土地ノ區域ニ基キモノナルカ故ニ司法機關ノ管轄ハ或司法機關カ訴訟事件ノ種類及土地ノ區域ニ從ヒ或特定ノ訴訟事件ニ付キ其權限ヲ行フコトヲ得ルコトヲ指スモノト謂フ。ハシ司法機關カ事件ノ種類ニ從ヒ或特定ノ訴訟事件ニ付キ有スル管轄ハ之ヲ事物ノ管轄ト稱シ土地ノ區域ニ從ヒ或特定ノ訴訟事件ニ付キ有スル管轄ハ之ヲ土地ノ管轄ト稱ス。法律カ訴訟事件分配ノ規定ヲ設ケテ各司法機關ニ事件ヲ分配スルモノナリ。司法機關ノ管轄スヘキ事務ノ範圍自ラ一定スルモノナリ。而シテ訴訟事件ノ分配ニ基キ

事務ノ範圍ハ亦之ヲ管轄ト稱ス。故ニ管轄ナル文字ハ一方ニ於テ裁判所カ其權限ヲ行フコトヲ得ルコトヲ意味シ他ノ一方ニ於テ訴訟事務ノ一定ノ範圍ヲ指スモノト知ルヘシ。蓋シ司法機關カ事務ノ管轄ハ之ヲ事物ノ管轄ト稱シ土地ノ區域ニ從ヒ或特定ノ訴訟事件ニ付キ有スル管轄ハ之ヲ土地ノ管轄ト稱ス。法律カ訴訟事件分配ノ規定ヲ設ケテ各司法機關ニ事件ヲ分配スルモノナリ。司法機關ノ管轄スヘキ事務ノ範圍自ラ一定スルモノナリ。而シテ訴訟事件ノ分配ニ基キ

民事訴訟法第一編 裁判所 裁判所

右ニ述ヘタル所ニ從レハ司法機關ノ管轄ハ權限ノ分配ニ非ズ。然レテ訴訟事件ノ分配ニ外ナラサルヲ一方ヨリ觀ルトハ權限ノ行使ニ關スル制限ニ外ナラス。ト謂フコトヲ得ヘシ。

第二項 事物ノ管轄

既に述べタル所ニ依リハ事物ノ管轄ハ地方裁判所及ヒ區裁判所ノ間ニ就テ事件ノ分配ナリト知ルヘシ

第一審裁判所ノ權限ニ屬スル訴訟事件ヲ地方裁判所及ヒ區裁判所ニ分配スルニ當リテハ訴訟物ノ價額ノ少キ事件輕易ナル事件若シハ迅速ニ爲フ事件ニシテ簡便ナル手續ニ依ルコトヲ至當トスルモノハ之ヲ區裁判所ニ委テ其餘ノ事件ハ之ヲ地方裁判所ニ委スルノ主義ヲ採レタ今區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ舉ゲレハ則テ左ノ如シ

第一ハ訴訟物ノ價額百圓ヲ超エタル事件ニ就テハ區裁判所ニ管轄ニ屬スルモノナリ
第二ハ迅速ニ爲フ事件即チ貸貸借若シハ雇傭ニ關スル事件旅行ニ基因スルモノハ事件又ハ占有ニ關スル事件是ナリ

此等ノ事件ハ訴訟物ノ價額ノ如何ニ拘ハラズ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ
第三ハ訴訟物ノ價額百圓ヲ超エタル事件ニ就テハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ

第三項 不動產ノ境界ニ關スル事件

地方裁判所ハ區裁判所ニ於テ取扱ハサル一切ノ訴訟事件ヲ取扱フモノナリ故ニ地方裁判所ハ通常ノ場合ニ於ケル第一審裁判所ナリト謂フコトヲ得ヘシ就中一切ノ親族法上ノ訴訟事件及ヒ訴訟物ノ價額百圓ヲ超ユル訴訟事件ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ

地方裁判所及ヒ區裁判所ノ間ニ於ケル事件ノ分配ハ當事者ノ意思ニ依リテ左右スルコトヲ得ルモノト然ラサルモノトアリ法律ニ於テ或訴訟事件ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ管轄ニ專屬スル旨ヲ定メタルトキハ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ動スコト能ハサルモノナリ親族法上ノ訴訟事件ハ如キハ地方裁判所ノ管轄ニ專屬シ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ區裁判所ノ管轄ニ屬セシムルコト能ハサルモノナリ

第三項 土地ノ管轄

第一審裁判所ノ土地ノ管轄ハ訴訟物ノ所在地ニ依リテ定メラル

第二 所謂裁判所トハ受訴裁判所ヲ指スモノトス裁判所ノ土地ノ管轄ヲ定ムルニ當リテハ先ツ裁判所ノ管轄區域ヲ定メタルヘカラス而シテ裁判所ノ管轄區域ニ關スル規定ハ當事者ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナリ何トナレハ裁判所ノ管轄區域廣キニ失スルトキハ被告ノ利益ト爲リ狹キニ失スルトキハ原告ノ利益ト爲ル結果ヲ生スルヲ以テナリ土地ノ管轄ハ或裁判所ノ管轄區域内ニ屬スル訴訟事件ニ付キ存在スルモノナルヲ以テ裁判所ノ土地ノ管轄ヲ定ムルニハ其管轄區域ト訴訟事件トノ連絡ヲ生スヘキ事情ヲ定ムル必要アルモノナリ裁判所ノ管轄區域ト訴訟事件トノ間ニ連絡ヲ生スヘキ事情ニシテ第一審裁判所ノ土地ノ管轄基礎ト爲ルハ左ノ如シ意思ニ當リテハ(一) 被告ト裁判所ノ管轄區域トノ關係 被告ト裁判所ノ管轄區域トノ關係ニ被告ニ對スル一切ノ訴ニ付テノ管轄ノ基礎トナルヘキモノト或種類ノ訴ニ付テノ管轄ノ基礎ト爲ルヘキモノトアテ其性質ニ依リ區別スモノト爲(二) 訴訟ノ目的タル請求又ハ法律關係ト裁判所ノ管轄區域トノ關係ノ請求又ハ法律關係ト裁判所ノ管轄區域トノ關係ハ請求又ハ法律關係ノ發生ノ原因

タル事實其目的物又ハ其效力ニ基テモノナレハ民事訴訟法ノ管轄區域ニ關シテ或裁判所ノ管轄ニ屬スル訴訟事件ト他ノ訴訟事件トノ關係ニ一ノ訴訟事件カ前ニ述ヘタル二箇ノ事情ノ或者ニ因リテ或裁判所ノ管轄區域内ニ屬スル場合ニ於テ更ニ第二ノ訴訟事件カ其訴訟事件ト關係ヲ有スルモノト第二ノ訴訟事件ハ亦間接ニ右ノ裁判所ノ管轄區域内ニ屬スルモノト謂フヘシ一ノ訴訟事件カ或裁判所ノ土地ノ管轄ニ屬スルトキハ右ノ裁判所ハ其訴訟事件ニ付キ裁判權ヲ行フコトヲ得ルモノニシテ被告ハ右ノ裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキ義務ヲ有スルモノトス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ被告ハ右ノ裁判所ノ裁判ヲ受クル權利ヲ有スルモノニシテ決シテ之ヲ棄ス能ハサルモノトス是レ實ニ憲法ノ保障スル所ナリ今被告カ或裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキ義務ヲ有スルトキハ之ヲ名ケテ裁判籍ト稱ス裁判籍ナル文字ハ裁判所ノ土地ノ管轄ヲ定ムル事情ヲモ指スモノナルヲ以テ二様ノ意義ヲ有スルモノト知ルヘシ而シテ或裁判所カ例外ノ規定アル場合ノ外被告ニ對スル一切ノ訴ニ付キ土地ノ管轄權ヲ有スルトキハ被告ハ其裁判所ニ普通裁判籍ヲ有スルモノトス之ニ

反シテ裁判所カ被告ニ對スル或種權利訴又ハ或特定ノ訴ニ付キ土地ノ管轄權ヲ有スルトキハ被告ハ其裁判所ニ特別裁判籍ヲ有スルモノナリ左ニ普通裁判籍及ヒ特別裁判籍ニ付キ説明ヲ爲スベシ

甲 普通裁判籍

普通裁判籍ハ通常被告ノ住所ニ依リテ定ムルモノトス故ニ普通裁判籍ハ被告ノ一身上ノ事情ニ依リテ定ムルモノト謂ハサルヘカラス凡ソ或裁判所カ或訴訟事件ニ付キ土地ノ管轄權ヲ有スルトキハ被告ハ其裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキ結果ヲ生スルモノナルヲ以テ土地ノ管轄權ハ本則トシテ被告ノ一身上ノ事情ヲ以テ其基礎トモサルヘカラス加之何人モ訴ヲ受タル危險ヲ有スルモノナルヲ以テ被告ノ一身上ノ事情ヲ以テ土地ノ管轄權ノ基礎ト爲サスル原告ノ一身上ノ事情ヲ以テ其基礎トスルトキハ各人ニ對シ甚タ不利益ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ是レ即チ被告ノ一身上ノ事情ニ依リテ普通裁判籍ヲ定ムル所以ナリ羅馬法ニ於テハ被告ノ住所又ハ出生地ニ依リテ又獨逸ノ古法ニ於テハ被告ノ土地所有ニ依リテ裁判籍ヲ定ムルノ基礎ト爲シタルモ獨逸民事訴訟法及ヒ

我民事訴訟法ニ於テハ被告ノ住所ヲ以テ普通裁判籍ヲ定ムル標準トモシ是レ蓋シ住所ハ吾人ノ生活ノ本據タル場所ナルカ故ナリ

住所ノ在ル場所ニ付キ既アル場合ニ關シテハ法律ニ於テ特ニ規定ヲ設ケタリ即チ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者及ヒ兵役義務履行ノ爲メニ服役スル者ヲ除キタル軍人軍屬ハ兵營地若タハ軍艦定繫地ニ住所ヲ有スル旨ヲ規定セリ此住所ハ裁判上ノ住所ナリト雖モ實際ノ住所ト一致スルコト通常アルベシ

法律ハ内國ニ住所ヲ有セサル者ノ普通裁判籍ヲ定ムルカ爲メ或場合ニ於テ其裁判上ノ住所ヲ認メタリ即チ外國ニ於テ治外法權ヲ有スル帝國官吏其家族及ヒ從者ノ裁判上ノ住所ハ本法ニ於テ本人ノ最後ニ有セシ住所トシ此住所ナキトキハ司法大臣ノ命令ヲ以テ豫メ定メタル東京市内ノ或區ヲ以テ其住所トス此ノ如ク法律ニ於テ裁判上ノ住所ヲ設ケタル所以ハ他ナシ右ニ掲ケタル者ハ實際住所ヲ有スル外國ノ裁判權ニ服從セサルヲ以テ法律ノ假想ニ依リテ其住所ヲ設ケタルトキハ其普通裁判籍ノ存在セサル結果ヲ生スルカ故ナリ

或人カ右ニ述ベタル所ニ依リ日本ニ於テ裁判上ノ住所ヲ有セサルトモ其

普通裁判籍ハ日本ニ於テ存在セザルガ爲メ日本ノ裁判權ニ服從セザル結果ヲ生スルモノナリ故ニ法律ハ特ニ規定ヲ設ケ日本ニ於テ住所ヲ有セザル者ノ普通裁判籍ハ其現在地ニ依リテ定マレ若シ現在地知レザルガ又ハ外國ニ在ルハ其最後ニ有シタル日本國內ノ住所ニ依リテ定マルモノト規定セリ然レトモ外國ニ住所ヲ有スル者ノ爲メ此等ノ事情ニ基キ日本ニ於テ普通裁判籍ヲ設クルハ甚タ不當ナルノミナラス其必要大キ故ニ外國ニ住所ヲ有スル者ハ右ニ述ヘタル事情アルニ拘ハラヌ日本ニ於テハ普通裁判權ヲ有セザルモノトシ外國ニ住所ヲ有スル或人ノ内國ノ現在地又ハ其最後ニ有シタル内國ノ住所ニ依リテ定マリタル裁判籍ニ於テハ日本ニ於テ生シタル法律關係ニ關スル訴ニ限リ之ヲ提起スルモノト得ルモノト定メタリ故ニ或人カ外國ニ於テ住所ヲ有スル場合ニ於テハ其現在地又ハ其内國ニ於テハ其最後ノ住所ニ依リテ定マリタル裁判籍ハ日本ニ於テ生シタル法律關係ニ關スル訴ニ付テノ特別裁判籍ナリト附テタルハカラヌ而モ本條ニハ普通裁判籍ニ依リテ之ヲ決定スルハ以テ法公私法人ノ普通裁判籍ハ其住所ニ依リテ之ヲ決定スルモノト能ハサルヲ以テ法

據

律ニ於テ特別ノ規定ヲ設テ即チ國ノ普通裁判籍ハ訴訟ニ付キ國ヲ代表スル官廳ノ所在地ニ依リテ定マリ其條ニ法人ノ普通裁判籍ハ其法人ノ所在地ニ依リテ定マルモノトス而シテ其所在地國付キ別段ノ定ナキトキハ事務所ノ所在地トシ事務所ナキ者又ハ數箇所ニテ事務所ヲ取扱フトキハ其首長又ハ事務擔當者ノ住所ヲ以テ事務所ト看做スモノトシ法人ノ資格ニ於テ訴ヘラルモノト得ル社團又ハ社團ニ付テ亦同シ然レハ被告ハ訴訟權ニ就キ得ルモノト受乙メ特別裁判籍ハ訴訟ノ標的ニ付テハ民事關係ニ關スル訴訟ニ限リテ設ケ特別裁判籍ハ左ノ如ク之ヲ大別スルコトヲ得ルモノト爲メ今營業ニ關スル事情(一)被告ハ一身上ノ事情ニ基キ特別裁判籍ハ此裁判籍ハ被告ハ一身上ノ事情ニ基キ大別スルコトヲ得ルモノト爲メ今營業ニ關スル事情(イ)被告ハ特別裁判籍ハ被告ハ性質上永年ニ定メ土地ノ富在スル事情ニ基キ現ニ或土地ニ寓在スル因テ生スル訴訟ニ關スル此裁判籍ハ存スル裁判所ニ於テハ財産上ノ請求ニ關スル一切ノ訴ヲ起スモノト得ルモノトス

ス例ハ人生徒雇人營業使用人營業生兵使義務履行ヲ爲スモノハ賦税ハ軍人軍屬ニ對シテ其寓在地ノ裁判所ニ財產權ノ請求ニ關スル訴ヲ起スルト得ル如シ今此特別裁判籍ヲ認メタル所以ハ他ナシ被告ハ此裁判籍ニ據テ訴ヲ受タルモ敢テ不便ヲ感スルモノナキ以テナリ

(ロ) 店舗ノ裁判籍ハ被告ハ製造其他ノ營業ニ付キ直接ニ取引ヲ爲ス店舗ヲ有シ又ハ所有物若シテ賃借人トシテ住家及農業用ノ建物ヲ耕土地ヲ利用スルニ因テ生ズルモノトス此裁判籍ヲ於テハ營業ニ關スル訴訟ヲ起シ又ハ土地ノ利用ニ付テノ法律關係ニ關スル訴ヲ起スコトヲ得ルモノナリ今此特別裁判籍ヲ認メタル所以ハ他ナシ被告ハ此裁判籍ニ於テ訴ヲ受タルモ敢テ不便ヲ感スルモノナキ以テナリ

(ハ) 財產ノ裁判籍ハ被告ハ或裁判所ノ管轄區域内ニ於テ財產又ハ原告ノ請求スル物ヲ有スルニ因テ生ズルモノトス此裁判籍ニ於テハ被告ハ内國ニ住所ヲ有セタル場合ニ限リ財產上ノ訴ヲ起スモノヲ得ルモノトシ被告ハ裁判所ノ管轄區域内ニ於テ有スル財產ハ爭ニ係ルモノナキ否

ア同ハス又其財產ノ物ニ關スル債權又ハ其他ノ權利ヲ得ルモノナリ而シテ債權ハ第三債務者ノ住所ヲ管轄スル裁判所ノ管轄區域内ニ存在スルモノト看做サレ又債權ニ付テ物ヲ擔保タルモノトシ其物ノ所在地ヲ管轄スル裁判所ノ管轄區域内ニ存在スルモノト看做サルモノトス今此特別裁判籍ヲ設ケタル所以ハ蓋シ普通裁判籍ノ存セタル爲メ生ズル不便ヲ避ケルカ爲メ外ナラサルナリ

(二) 法律關係ニ基テ特別裁判籍ハ此裁判籍ハ訴訟ノ目的物ハ法律關係ニ據リ所ノ管轄區域トノ關係ニ基クモノナルヲ以テ或裁判所ノ管轄區域ト關係ヲ有スル法律關係ニ付テ訴ニ關シタルモノ存在スルモノトス是ハ其特別裁判籍タル所以ナリ

(イ) 不動産上ノ裁判籍ハ此裁判籍ハ或法律關係ノ目的物タル不動産ハ或裁判所ノ管轄區域内ニ在ルニ因テ生ズルモノナリ不動産上ノ所有權地上權其他本權ノ訴及ヒ不動産ノ占有ニ關スル訴不動産ノ分割或ハ境界ノ訴ハ此裁判籍ニ專屬スルモノトシ而シテ地役權ニ付テハ承役地ノ所在ニ依テ

決定アリタル不動産上ノ裁判籍ニ之ヲ提起スルハ其地ノ所有權ノ範圍地稅權ノ目的物ハ承役地ナル故ナリ不動産上ノ裁判籍ニ於テハ不動産ノ所有者又ハ占有者ニ對シ其資格ニ於テ提起スルハ其債權ノ訴訟ニ不動産ノ占有者其不動産ニ付キ被リタル損害ノ賠償ヲ請求スルハ其地ノ所有權ノ範圍地稅權ノ範圍ニ加ヘ之不動産上ノ裁判籍ニ於テ債權ノ擔保タル物權ニ基キ訴ニ附帶シテ同一ノ被告ニ對スル債權ノ訴訟ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ不動産上ノ裁判籍ハ便宜上設ケタルモノニ外ナラス

(ロ) 契約ノ裁判籍 契約ノ成立若クハ不成立ヲ確定又ハ其履行取銷解除又ハ其不履行若クハ不十分ノ履行ニ基キ賠償ノ訴訟ハ此裁判籍ニ於テ之ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ此契約ノ裁判籍ハ訴訟ノ目的タル契約ニ基キ義務ヲ履行スル地ノ管轄ハ裁判所ニ存在スルモノニシテ便宜上之ヲ設ケタルモノナリ凡シ契約ニ基キ義務ノ履行ハ他ノ債務履行ニ同シタ債權者ノ住所ニ於テ之ヲ爲スルコトヲ本則トシ而シテ債務履行ノ訴訟ニ對シ契約ニ基キモノナルヲ以テ契約ノ裁判籍ヲ認メタ結果該被告ノ住所ニ依リ普

通裁判籍ヲ認メタル精神ヲ全クスルニ能ハサルモノナリ

(ハ) 不法行為ノ裁判籍 此裁判籍ハ不法行為ヲ行ハル地ノ裁判所ニ存在スルモノトス此裁判籍ニ於テハ不法行為者ニ對スル損害賠償ノ訴訟ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ此ノ如キ不法行為ノ裁判籍ヲ認メタル所以ハ蓋シ證據方法ヲ得ルコトヲ容易ナラシメタル主旨ニ出タルモノナリ

(ニ) 社團ノ裁判籍 此裁判籍ハ社團ノ普通裁判籍ニ存スル地ノ裁判所ニ在ルモノナリ此裁判籍ニ於テハ會社又ハ其他ノ社團ヨリ社員ニ對シ又ハ社員ヨリ社員ニ對シ其社員タル資格ニ基キ請求ノ訴訟ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ

(ホ) 株式會社ヨリ株主ニ對スル株金拂込ノ請求ニ付テハ訴訟ノ如キ訴訟ハ相續ノ裁判籍 此裁判籍ハ遺產者ハ其死亡ノ時ニ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ存在スルモノナリ此裁判籍ニ於テハ遺贈又ハ其他ノ死後處分ニ因ル請求ノ訴訟ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ又此裁判籍ニ於テハ遺產債權者ヨリ遺產者又ハ相續人ニ對スル請求ノ訴訟ヲ起スルコトヲ得ルモノナリ然レ

(三) 訴訟事件相互ノ關係ニ基テ特別裁判籍或裁判所所屬又訴訟事件ニ付對土地ノ管轄ヲ有スルトキハ之ト關係ヲ有スル他ノ訴訟事件ハ第一ノ訴訟事件ノ管轄裁判所ニ裁判籍ヲ有スルコトアルモノト例ヘテ辯護士又執達吏ノ手數料及立替金ニ付キ委任者ニ對シテ起ス訴反訴及主參加ノ訴ハ本訴訟ノ第一審裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルカ如シ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴及ヒ配當ニ付キ異議ヲ申立タル債權者ノ訴ニ付テモ亦訴訟事件相互ノ關係ニ基テ特別裁判籍ノ存在スルモノトス(第五四九條第六三五條)

以上述べタルカ如ク普通裁判籍の外ニ尙ホ數多ク特別裁判籍ヲ設ケタル結果
トシテ或訴訟事件ニ付キ同時ニ數多ク裁判籍ヲ存在スルコトヲ生ジス此人如
ク普通裁判籍ノ外ニ數多ク特別裁判籍ヲ設ケタル所以ハ蓋シ普通裁判籍ヲ存
在セサル場合ニ於テ其欠缺ヲ補ヒ以テ内國ト關係ヲ有スル訴訟事件ニ付キ内
國ノ裁判所ニ訴テ起ス途ヲ與セルト普通裁判籍ハ往往原告ノ爲メ甚だ不便ナ

ル場合アルヲ以テ被告ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ原告ノ利益ヲ保護セシメ
主として國外ナラサルナリト雖ハ管轄ハ訴訟ノ受入ル人ハ親告狀ニ對シテ國家
原告ノ數多シ裁判籍ヲ存スル場合ニ於テ自由ニ選擇ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖
其次ノ場合ニ於テハ例外トシテ其選擇ノ自由有テ有セサルモノト爲正正正
(一) 或裁判籍カ他ノ裁判籍ノ存在セサル場合ニ於テ效力ヲ有スルトキ又例ハ
其ノ財産ニ裁判籍ノ普通裁判籍ニ存セサル場合ニ於テ其效力ヲ有スル例如シ
(二) 專事裁判籍ノ定アル場合ハ專事裁判籍ノ裁判籍ニ關スル規定ニ從ヒ本來
而數箇ノ裁判籍ヲ併存スル場合ニ於テ或裁判籍ニミテ效力ヲ有シテ他ノ裁判
裁判籍ヲ排除スル場合ニ於テ存在スルモノトス例ハ不動産ノ裁判籍ノ如キ
是ナリ親告狀ハ其ニ該合ニ依リテ其土地親告狀ハ管轄ノ條件ヲ數ニ固メテ裁判
第二審裁判所ノ土地ノ管轄ハ第一審裁判所ノ所在地ニ依リテ定マリ第三審裁
判所ノ土地ノ管轄ハ第二審裁判所ノ所在地ニ依リテ定マルモノナリ即チ第二
審裁判所ハ其管轄區域内ニ在ル第一審裁判所ノ取扱タル訴訟事件ニ付キ土
地ノ管轄權ヲ有シ第三審裁判所ハ其管轄區域内ニ於ケル第二審裁判所ノ取扱

其地之訴訟事件ニ付主土地ノ管轄權有之者ハ其地ノ第一審管裁判所及第三
 審裁判所ノ土地ノ管轄ハ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ左右スル權利無キ事ナ
 第二審執行機關送達機關及ヒ裁判所書記ノ土地ノ管轄權ハ其地ノ第一審管
 執達吏力強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ其土地ノ管轄ハ執行行為ニ因リテ定マ
 ルモノナリ即チ各執行行為ハ之ヲ爲スヘキ地ノ執達吏之管轄權ニ依リテ定
 ヲシテ或一箇ノ執行行為ハ同時チ數多ノ地ニ於テ之ヲ爲スモノ能ハズナリ以
 ツ執達吏ノ土地ノ管轄ハ其性質上專屬ナリト謂ハサルベカラズ然レモ本
 執行裁判所力強制執行ヲ爲ス場合ニ付テハ其土地ノ管轄ニ付テ法律ニ於テ種
 種ノ規定ヲ設ケ第五百九十五條第六百四十一條第七百八十八條等是ナリ又受訴
 裁判所力強制執行ヲ爲ス場合ニ付テハ民法施行法第五十四條及ヒ第五十五條
 等ニ於テ其土地ノ管轄ニ付キ特ニ規定ヲ設ケタリ然レモ其地ノ管轄ハ送達
 送達機關ハ其執達吏ノ土地ノ管轄ハ送達ヲ受テヘキ人ノ所在地ニ依リテ定マ

ノ委任ノ欠缺等是ナリ此等條件ノ欠缺アリ故ニ被告ニ於テ主張シタルト事
以裁判所の場合ニ依テテ訴ノ却下ヲ爲シ或ハ之ニ過シタル裁判ヲ爲ササル
カラスト其旨ハ又判牒ニ列載精簡ニ致ス判牒ハ原告ノ請求ニ付ス

第二款 本案ノ答辯

原告カ前述シタル如ク被告ニ對シテ實體上ノ請求權アルコトヲ主張シ被告ニ敗訴ノ判決ヲ求ムルモノナルカ故ニ被告ノ之ニ對スル答辯ハ原告ノ請求ヲ認ムルカ若クハ爭フカニ二方向ニ於テ成立ス被告カ原告ノ請求ヲ認ムル場合ハ民事訴訟法ニ之ヲ認諾ト稱ス第二二九條參照廣ク認諾ト稱スルトキハ裁判上「モノト裁判外ノモノト」ノ二アリ裁判外ノ認諾ハ如何ナル效果ヲ發生スルヤハ實體上ノ問題ニ屬ス訴訟法上ノ效果ヲ生スル認諾ハ訴訟行爲タル認諾ニシテ即チ裁判所ニ繫属シタル訴訟ニ付テ被告カ原告ノ主張スル實體上ノ請求ノ全部若クハ一部ヲ爭ハサル旨ノ意思表示即チ原告ノ請求ノ全部若クハ一部ヲ認ムル意思表示ヲ謂フ裁判上ノ認諾ニハ次ニ三條件ヲ必要トス

(一) 原告又ハ反訴ヲ以テ主張シタル請求ニ關スルコトニ即チ原告カ訴ヲ以テ被告ニ對シ給付ノ義務アルコトヲ主張シ若クハ法律關係ノ成立、不成立ニ付テ確定ノ判決ヲ求メタル場合ニ被告カ義務アルコトヲ認メ若クハ法律關係ノ存在、不存在ヲ承認シタル場合ナルコトヲ要ス被告カ反訴ヲ以テ主張スル場合モ亦同シ、
(二) 被告カ口頭辯論ニ於テ認諾ノ意思ヲ表示スルコトニ即チ受訴裁判所ノ口頭辯論若クハ準備手續ニ於ケル受命判事ノ審問ニ於テ認諾ノ意思ヲ表示スルコトヲ要ス、
(三) 認諾ヲ爲スノ能力ヲ有スル者ノ意思表示ナルコトニ例ヘハ訴訟代理人ナルトキハ特別代理權アルコトヲ必要トシ訴訟本人ナルトキハ訴訟行為ヲ爲スノ能力アル者ノ認諾ナルコトヲ要ス
右三條件ヲ具備シタル認諾ハ民事訴訟法ニ於テハ被告ハ原告ノ請求ニ對スル總テノ防禦方法及ヒ裁判所ノ調査ヲ拋棄シタルモノト看做ス、隨テ原告ハ特ニ請求ノ基キ事實上及ヒ法律上ノ説明ヲ爲シ、証據ヲ提出スル必要ナク被告

告ニ對シテ敗訴ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ(第二二九條然レトモ此場合ニ於テモ裁判所ノ職權調査ニ屬スヘキ訴訟條件ノ如キハ裁判所ハ向ホ之ヲ調査スヘキ義務ヲ有シ又人事訴訟ノ如キ公益ヲ主トスル訴訟ニ付テハ當事者ハ訴訟材料ヲ自由ニ處分スルコトヲ得サルカ故ニ被告ノ認諾ニ拘ヘズ裁判所ハ事件ノ調査ヲ爲スヘキモノナリ)人事訴訟手續法第一〇條第三九條第五九條參照認諾ハ自白ト異ナル自白ハ原告ノ攻擊ノ理由ヲ爭フコトヲ欲セザル被告ノ意思表示ニシテ原告ノ請求權アルコトヲ認ムルニ非ス、請求ノ附屬ナル被告カ原告ノ請求ヲ爭フ場合ニ於テハ裁判所ハ原告請求ノ當否ヲ調査セザルヘカラス被告カ原告ノ請求ヲ爭フニハ即チ單純ニ原告ノ請求權ヲ認メザル場合ト或ハ抗辯ヲ提出シテ爭フ場合トノ二アリ孰レモ實體上ノ問題ニ屬ス然レトモ其抗辯ヲ述フレハ單純ニ原告ノ主張ヲ爭フ場合ハ事實ヲ否認スル法律上ノ反對陳述ヲ爲ストニ在リ事實ノ否認トハ原告主張ノ事實ノ全部若クハ一部ニ付テ不實ヲ主張スルヲ謂ヒ法律上ノ反對陳述トハ原告主張ノ請求ハ法律上理由ナキコトヲ主張スルヲ謂フ即チ原告主張ノ事實ハ之ヲ真實ナリトスル

モ請求カ法律上理由ナキコトヲ主張スルヲ謂フ次ニ抗辯ヲ提出シテ爭フ場合トハ請求權不成立ノ抗辯即チ原告主張ノ事實ヲ認メ原告ノ請求ヲ拒ミ得ヘキ事項ヲ主張シ例ヘハ意思能力ノ欠缺セル場合ニ於ケル法律行為ニシテ全ク無効ナルコトヲ主張シ原告ノ請求權ナキコトヲ主張スルカ如キ又ハ請求權消滅ノ抗辯即チ原告主張ノ請求權ハ一旦成立シタルモ既ニ消滅シタルコトヲ主張スルカ如キ或ハ請求權停止ノ抗辯若クハ相殺ノ抗辯ヲ主張スルコトヲ得ヘシ停止ノ抗辯トハ原告カ請求權ヲ實行スル時期ニ到達セタルコトヲ主張スルカ如キヲ謂ヒ相殺ノ抗辯トハ原告ノ請求ヲ認メ被告ヨリ原告ノ請求ト相殺スルニ適シタル請求ヲ主張シ口頭辯論ニ於テ相殺ノ意思表示ヲ爲スコトヲ謂フ相殺ノ條件ニ付テハ實體法ノ規定ニ從フ面シテ相殺ノ抗辯ハ反訴ヲ以テ主張スルコトヲ必要トセス又特別ノ委任ナキト雖モ訴訟代理人ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

第三節 準備書面ノ交換

民事訴訟法ハ口頭辯論主義ヲ採用スレトモ訴訟ヲ進行ヲ速ナラシムル爲メニ當事者カ口頭辯論ニ於テ爲サントスル申立其他事實上ノ關係證據方法等必要ナル陳述ヲ書面ニ記載シ裁判所ノ手ヲ經テ當事者雙方相互ニ送達シ以テ辯論ノ準備ヲ爲スモノナリ之ヲ稱シテ準備書面ト謂フ準備書面ハ口頭辯論準備ノ爲メニ交換スルモノナレハ其記載事項ニ當事者ノ陳述ハ拘束セララルモノニ非ス而シテ準備書面作成ノ方式ハ第五百五條乃至第七條ノ規定ニ從フ準備書面ノ主タルモノハ訴狀並ニ答辯書ニシテ訴狀ハ訴ノ基礎ヲ確定スル書面タルト同時ニ準備書面ノ性質ヲ有ス

(一) 原告ハ訴狀ノ原本一通及ヒ相手方ニ付與スル爲メ必要ナル原本ヲ裁判所ニ差出ササルヘカラス(第一九〇條第一〇八條參照原本ハ訴提起ノ爲メ必要ニシテ原本ハ相手方ニ送達スル必要アルヲ以テナリ第一三七條參照)

(二) 不完全ナル訴狀ハ裁判長ハ欠缺補正ノ必要アリエ否ヤヲ調査シ其手續ヲ爲シタル後口頭辯論ノ期日ヲ指定ス(第一九三條第一五九條第一六〇條參照裁

判長カ期日ヲ指定スルニハ訴狀送達ト口頭辯論期日トノ間ニ二十日ノ時間ノ存スルコトヲ必要トス(第一九四條)故ニ裁判長ハ訴狀送達ニ要スル日數相手方カ遠隔ノ地ニ在ル場合ニハ出頭ノ爲メニ要スル旅行日數等豫メ計リテ期日ヲ定メサルヘカラス(第一六七條參照)若シ其期間カ完全ニ存セサル場合ニ於テハ權利拘束ノ效力發生ニ關係ナシト雖モ出頭セサル被告ニ對シテ關席判決ヲ爲スコトヲ得ス(第二五四條第一項參照)然レトモ此期間ハ被告ノ爲メニ存セラルルモノナレハ被告ニ於テ此期間ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ得ルハ勿論ナリトス故ニ期間ヲ存セサル呼出ニ對シ被告カ出頭シテ原告關席セル場合ニ關席判決ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ右二十日ノ期間ハ特別ノ事情アルトキハ原告ノ申立ニ依リテ二十四時マテニ短縮スルコトヲ得ヘク被告カ答辯書ヲ差出スコトヲ得サル場合ニ於テモ取テ妨ナキモノトス期間ノ短縮ハ申立ヲ待テテ爲スヘキモノニシテ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス又期間短縮ノ裁判長ノ命令ハ職權ヲ以テ被告ニ送達スルコトヲ必要トス而シテ二十四時間ニ短縮スル場合ニ於テモ被告カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ裁判長ハ期日ノ指定ト共ニ期間

ヲ特別ノ命令ヲ以テ定ムルコトヲ要ス(第二〇三條第一六七條第二四五條第一九四條參照)

(三) 訴狀ノ送達ハ裁判所書記カ訴狀ノ原本ニ期日呼出狀答辯書差出ノ催告書ヲ添ヘテ(第三百十條以下ノ規定ニ從ヒテ)之ヲ爲スヘキモノナリ(第一六一條第一九九條參照)右ノ如ク訴狀ノ送達ニ付テハ特別ノ規定アリト雖モ答辯書ノ差出等ニ付テハ唯訴狀ノ送達ヨリ起算シテ十四日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出スヘキ旨ヲ命シタルニ過キス蓋シ答辯書ハ單純ナル準備書面ナルヲ以テ之ヲ差出スト否トハ訴訟ノ效果ニ關係ナキモノニシテ唯被告ノ答辯如何ヲ口頭辯論前ニ於テ原告ニ知ラシメ原告ヲシテ訴訟ノ準備ヲ爲サシムルノ目的ニ外ナラス而シテ答辯書差出ノ期間モ亦短縮スルコトヲ得ルモノナリ(第二〇三條)以上述ヘタル訴狀及ヒ答辯書ノ外當事者ノ一方ニ於テ訴狀若クハ答辯書ニ掲ケテリシ事實上ノ主張又ハ證據方法若クハ申立ニ付テ相手方カ豫メ察覺ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト豫知スル事項アリタルトキハ口頭辯論

前相手方ニ此書面ヲ送達スルハ時間及ビ相手方ヲ以テ必要ナル穿鑿ヲ爲スル時間ヲ存シ此事項ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ差出シテ相手方ニ送達セシムルコトヲ必要トス(第二〇四條第一項)又口頭辯論ノ期日ニ於テ右ニ述ベタル事項ニ付テ相手方ニ穿鑿ヲ爲サシムルハ必要等アリタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯論ノ延期ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ此場合ニハ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メテ必要ナル準備書面ヲ一定ノ期間内ニ差出スベキコトヲ當事者ニ命スルコトヲ得ヘシ(第二〇四條第二項)

第四章 口頭辯論

口頭辯論ハ裁判長ノ指定シタル期日ニ於テ一般ノ規定即チ總則編第九條乃至第三百三十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スベキモノナリ口頭辯論ニ關スル一般ノ原則辯論進行ノ方式ハ總則編ノ說明ニ據リ以下單ニ第二編ニ規定セル口頭辯論ニ關スル事項ニ付テ説明スヘシ

第一 口頭辯論ニ於テハ當事者ハ判決ヲ受クベキ事項ハ申立テ書面ニ基キテ

此範圍ニ於テ外國裁判所ハ判決ニ亦確定力ヲ有スベシ此點此處如キ明文大キ以上外國ノ刑事判決ヲ内國ニ於テ執行スル能ハサルト同シテ外國裁判所ノ判決ヲ認ムル義務ナキナリ又同ニキルニ據リ外國裁判所ハ總則編第四ノ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止スルハ當然ナリ公訴提起前ニ刑新法ヲ以テ刑ヲ廢止スルハ刑罰請求權ヲ消滅スルハ當然ナリ公訴提起前ニ刑ノ廢止アリタルトキハ檢事ハ起訴スルモ目的ナキヲ以テ手續ヲ爲スベキモノニ非ス又起訴後ニ於テ刑ノ廢止アリタルトキハ裁判所ハ免訴ノ言渡ヲ爲スベキモノトス若シ判決言渡後其確定前ニ刑ノ廢止アリタル時ハ此間ニ告訴ヲ拋棄アリタル場合ト同シテ檢事ハ之ニ基キテ上訴ヲ爲スノ義務アリ若シ上訴ヲ爲サレハ刑ノ廢止アリタルニ拘ハラズ其判決ハ確定シ執行セラルルニ至ルヘシ何トナレハ裁判ニシテ當然無効ト爲ルベキモノナキヲ以テナリ若シ上訴アリタルトキハ上訴裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタルヲ下級審ノ判決ヲ取消シ更ニ免訴ノ言渡ヲ爲スベキモノトス附ハ審判官ハ總則編第六條ニ據リ審判官ハ第五ノ大赦ハ大赦ニ基キテ公訴ヲ及ビ審判官ハ總則編第六條ニ據リ審判官ハ

夫故ハ天皇ノ大權ニ基クモノニシテ憲法第一六條刑罰權ヲ拋棄スル處分ナリ
隨テ公訴權ハ消滅ニ歸スルモ私訴權ハ消滅セス而シテ大赦ハ刑罰請求權アル
コトヲ前提トシテ爲スモノナレハ犯罪事實ヲ消滅セシメテ效力アル無罪又
之ヲ以テ特別法ヲ公布ナリト謂フヘカラス大赦アレハ本法第六十五條第五
號及ヒ第二百二十四條ニ依リテ免訴ヲ言渡シ得キモノト爲リテハ消滅ニ至
第六ノ時效條合ハ同キ事ハ之ニ基キテ之ヲ稱マシテ之ヲ稱スルモノナリ
(二) 刑事ノ時效ハ刑罰期滿免除ト公訴ノ時效トノ二アリテ其消滅時效
ルモト疑ナキ所タリ而シテ公訴ノ時效ハ公訴權ヲ消滅セシメテ期滿免除ハ刑
執行權ヲ消滅セシムルモノニシテ之ヲ設ケタル理由モ亦二者ノ間ニ差異アリ
ト爲スノ學說アレトモ予ハ右ニ簡ノ時效ハ之ヲ設ケタル理由ハ同シク又之
ヲ爲メニ消滅スル權利モ同一ナリト謂フ至當ナリト信ス唯公訴ノ時效ハ犯
罪ノ日ヨリ終局判決アルマテノ間ニ存スル制度ナルニ反シテ期滿免除ハ終局
判決以後ニ存スル制度ニシテ其期間ヲ異ニスル別アルハ公訴ノ時效ハ無
何ナル權利ヲ消滅セシムルモノナレバ法律ニ認メタル刑事各場合ニ適用スル

國家ノ權利ヲ義務トシテ時效ニ罹ルモノニシテ即チ犯罪ニ因リテ生シタル國家
ノ刑罰請求權及ヒ之ニ伴フ義務ヲ消滅セシムル而シテ此刑罰請求權ヲ消滅セシ
結果トシテ公訴權ヲ消滅スルモノトス蓋シテ次ニ述フル公訴ノ時效ヲ設ケタル
理由ヨリスレハ刑罰請求權ヲ消滅セシムルモノト謂フヘキヲ以テナリ是ヲ以
テ裁判所ニ於テ時效ニ罹リタルコトヲ發見シタルトキハ刑罰請求權ヲ否認シ
免訴ノ言渡ヲ爲スモノトス(第一六五條第二四條)

公訴ノ時效ヲ設ケタル理由ニ付テハ社會ノ怠慢ト犯罪ノ遺忘ニ基クモノト爲
スカ若クハ證據ノ湮滅ニ基クモノト爲スヲ普通ノ學說トス然レトモ兩說共ニ
其當ヲ得タルモノト謂フヘカサルナリ國家ハ犯罪人ニ刑罰科スルノ義務ヲ
有ス然ルニ其怠慢ニ因リテ此義務ヲ消滅セシムルハ非理モ亦甚シカラズ
到底想像ノ及ハサル所タリ又犯罪ノ遺忘ヲ理由トスルトキハ刑罰ノ必要ハ犯罪
其モノニ由リテ生スルニ非スシテ犯罪カ發覺シ不穩ニ念ヲ懷キテ其刑罰ノ
必要ヲ生スル根柢ナリト謂フヘカサルナリ大ニ證據ノ湮滅說ハ罪ノ輕重ニ從
ヒテ時效期間ヲ定ムル點ヲ説明スルモノト雖ハ其重罪ハ輕罪ヨリ證據ノ湮滅カ

遅延スト謂フコト能ハサルナリ予輩ハ公訴ノ時効ヲ設ケタルハ事實ノ勢力ニ重キヲ置キタルカ爲メナリト信ス元來法律秩序ハ犯罪必罰ノ原則ヲ貫徹スルニ依リテ維持セラルルモノト謂フヘカラス國家現實ノ目的ト投合シ始メテ法律秩序ノ維持ヲ望ムコトヲ得ヘシ然ルニ今犯罪ヲ數年ノ後ニ至リテ罰セシカ却テ現在ノ秩序ヲ蹂躪スルニ止マリ犯罪人及ヒ世人ニ對シテハ何等ノ效驗ナカルヘキナリ時効ヲ設ケタルハ實ニ犯罪後ニ生シタル應ラフ事實ト法律ノ正義ト相抵觸スルニ當リ法律ヲシテ事實ニ屈從セシメ以テ其調和ヲ圖ルニ外ナラサルナリ而シテ此調和ヲ爲スニハ罪ノ輕重ニ依リ各異ナル時効期間ヲ設クルヲ要スルニ至ル

(二)時効ノ期間ハ本法第八條ニ之ヲ定ム然レトモ特別法ノ犯罪ニ對シ特別時効アリ例ヘハ新聞紙條例特許法等諸種ノ法規ニ於テハ特殊ノ時効期間アリ此第八條ノ規定ニ從ハサルナリ

第八條ニ依レハ重罪輕罪違警罪ニ依リ時効ノ期間ヲ異ニシ是ニ於テ重罪輕罪違警罪ヲ定ムル標準ハ何ニ據ルヘキヤノ問題ヲ生ス此問題ニ對シテハ檢察

カ起訴ノ當時附シタル罪名ニ依ラステ裁判所カ審理シタル結果ニ由リ認メタル事實ニ依ルヘキモノナリ而シテ又如何ナルモノハ重罪ニシテ如何ナルモノハ輕罪又ハ違警罪ナルヤニ付テハ刑法ニ於テ其科スル所ノ刑ニ依リテ之ヲ區別スヘキモノトス又此刑法上輕減シタル刑ヲ以テ標準トスヘキヤ將タ又各本條ニ記載スル所ノ刑ヲ以ラスルヤニ付テハ學說ニ派ス岐ル第一說ヲ爲ス者ハ曰ク各種犯罪ヨリ生スル公訴權カ時効ニ因リテ消滅スルニ非スシテ各場合ニ於ケル犯罪ヨリ生スル公訴權カ時効ニ罹ルモノナリ故ニ其犯罪ニシテ法律上ノ減等ヲ爲スヘキ場合ニハ減輕シタルモノヲ以テ本刑トスト此論者ト雖モ酌量減輕ハ裁判官ノ自由ニ定ムル所ナルハ此減輕ヲ爲シタルモノヲ以テ標準ト爲ササルナリ此學說ノ第一ニ批難ヲ受クヘキ點ハ此犯者カ二十歳未滿ナルト否トニ依リ同一犯罪ニ於テ時効期間ヲ異ニスルコトアリ又自首シタルト否トニ依リ之ヲ異ニシ又正犯ト從犯ト時効ヲ異ニス然ルニ時効ハ犯罪ヨリ生スル總テノ結果ヲ消滅セシメ共犯各自ニ對シテ異ナルモノニ非ズ第二ニ批難ハ官印偽造罪ノ如キ重懲役ニ該罪ニキ犯罪ニ未遂犯ニ於テハ減等ヲ減スル

ハ重罪ノ刑ニシテ二等ヲ減スルハ輕罪ノ刑ト爲ル新ル場合ニ於テハ重罪タル
ヲ將タ又輕罪タルヤハ此學說ニ從ヒテ之ヲ決定スルヲ得タルヘシ而シテ未遑
ノ一等減モ二等減モ共ニ法律上ノ減輕ニシテ法律ニ於テ減等ノ範圍ヲ廣ク
ルニ止マルナリ
刑法第七條以下ニ於テ刑ニ從ヒテ重罪輕罪等ノ區別ヲ爲シタルハ法典ノ編成
ヲ單一ニスル目的ニ出テタルモノニシテ此重罪輕罪等ノ區別ハ未遑犯ヲ罰ス
ルト否トニ關シテ適用アリ又裁判所ノ管轄強制辯護起訴ノ方式公判ノ手續及
ヒ時効ニ於テ適用アル等數多ク適用アルヲ以テ其錯雜ヲ避ケンカ爲メ重罪輕
罪ノ區別ヲ設ケ其規定ヲ單一ナラシメタルモノナリ然ルニ若シ前掲學說ノ如
ク減輕シタル刑ヲ以テ其區別ノ標準トセハ事複雜ニ涉リテ法律ノ豫期スル所
ニ反スヘシ是レ故ニ重罪輕罪ノ區別ハ犯罪ノ客觀的要素ヲ以テ區別シ犯人ノ
一身ニ止マル主觀的ノ減輕ヲ以テ標準ト爲スヘカラス而シテ從犯未遑犯ハ獨
立シタル特種ノ犯罪ニ非スシテ重罪又ハ輕罪ノ從犯未遑犯タルモノナレハ是
レ亦減輕シタル刑ヲ以テ罪質ヲ定ムル能ハズナリ又刑法第九十九條ハ加減

順序ヲ定ムル爲メニ從犯未遑犯ヲ減等シタル刑ヲ以テ本刑トシタルモノニシ
テ重罪輕罪ヲ定ムル力爲メニ設ケテ後ノ規定ニ非サルナリ
(三) 時効ノ起算點ハ第十條及ヒ第十五條ニ之ヲ規定セリ第十五條ニ依レバ時
効ノ期間ハ初日ヲ算入スヘキモノト爲セリ是レ此日ヲ以テ刑罰請求權及ヒ公
訴權ハ發生スヘキレハナリ又期間ハ最終ノ日ヲ終了即チ午後十二時ヲ以テ時
効ハ完成スルモノニシテ最終ノ日休暇ニ當ルモ之ヲ期間ニ算入スルモノトス
第十條ニ依レバ時効ハ犯罪ノ日ヨリ起算スルモノト爲セリ犯罪ノ日トハ犯罪
所爲カ事實上其終ラ告ケタル日ヲ謂フ故ニ時効ハ犯罪カ法律上成立シタル時
ヨリ進行スルモノニ非サルナリ今各犯罪ニ付テ之ヲ詳説スレハ左ノ如シ
(イ) 殺人放火ノ罪ノ如キ結果ヲ生シテ始メテ法律上既遂タル罪ニ於テハ結果
ヲ生シタル日ヲ以テ起算點トセズ即チ犯罪カ既遂ト爲ルヘキ以前ニ於テ時効
ハ進行スヘシ是レ甚ダ奇ナルカ如シト雖モ立法者ハ結果ヲ生スル日ヲ定ムル
ニトハ所爲ヲ行ヒタル日ヲ定ムルニ比シテ困難ナリトモ既遂ノ日ヲ起算點ト
爲ナリシモノナラン之ニ反シ過失失火過失殺傷場合ハ過失ノアリタル日

刑事ノ時効ニモ停止ナシ故ニ起訴ノ條件具備ナリ場合又ハ公判手續ヲ停止スヘキ場合ニモ時効ハ進行スルモノナラズ本條ニ根據スル北條第三條ノ意ヲ斟酌スルニ及ハス事ハ前記ノ如キ事ヲ以テ論ズルニ當リ然レモ事實ニ據ルニ當リテハ(イ)時効ニ罹リタルコト判明スルトキハ被告人ニ犯罪責任アリキ否キヲ定ムルニ及ハス事ハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ審理スヘキ事項ニ屬ス刑事時効ハ民事(ロ)時効ハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ審理スヘキ事項ニ屬ス刑事時効ハ民事ノ時効ノ如ク之ヲ拋棄スルヲ得シ而シテ裁判所ニ於テハ時効ノ問題ヲ定ムルニ必要ナル事實ヲ審理スヘキモノトス即チ重罪ナリキ又ハ輕罪ナリキノ點及ヒ犯罪ノ終了シタル日時ニ是ナリ豫審終結決定ニ認ミタル事實ニ依リテ時効ニ罹リタルコト判明ナルモ公判ヲ開カスシテ止ムヘキモノト非ス即チ時効ニ罹リタルトキハ免訴ノ判決ヲ爲スヘキヲ以テナリ然レモ此ニ對シテハ裁判所ニ於テ時効ニ關スル規定ニ違背スレバ之ヲ上告ノ理由ト爲スルコト得而セズ上告裁判所ハ犯罪ノ性質及ヒ日時ノ確定ニ付テハ下級審ノ認定ニ據ルモラルルモノ中斷ノ事實ハ自ラ之ヲ審査スルコトヲ得ヘシ

第六章 數箇ノ公訴ノ關係

數箇ノ刑事訴訟カ同一ノ裁判所ニ繫屬スルトキ區各刑事事件ノ關係ヲ全ク外部ノ關係ニ止メルモノニシテ此場合ニ何レノ訴訟ヲ先ニ審判スヘキハ裁判所事務章程ニ依リテ之ヲ定ムルモノナリ又數人カ一罪ヲ犯シ主觀的牽連事件若クハ一人カ數罪ヲ犯シ客觀的牽連事件トシテ其數箇ノ刑事事件間ニ在リテハ内部ノ關係アルモノニシテ一箇ノ裁判所ニ屬シ又此場合區各一箇ノ手續ヲ以テ審判スルヲ原則トシ然レモ其手續ヲ分離シ得ルモノ非ス也刑事事件ト豫判事件トノ關係ハ右ニ說明シタル内部及外部ノ關係並全ク異ナレバ豫判事件トハ其事件ノ裁判ヲ待タレハ他ノ事件ヲ裁判スル能ハサル場合ニシテ豫判事件ノ裁判ハ他ノ事件ノ裁判官ヲ攝束スルモノナリ我刑事訴訟法ニハ此豫判事件ヲ認メヌ第百八十四條及ヒ第百九十五條等ニ於テモ附帯犯又ハ偽證罪ノ豫審ノ結果ヲ待ツカ爲メニ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得ルモ決シテ附帯犯等ノ裁判ヲ待ツカ爲メニ本案事件ヲ裁判スルヲ得ル所非判單

他ノ事件ノ裁判ヲ待ツヲ便利トセザルヲ止ムルヲ謀ルモノナリ或刑事事件カ互ニ實體上關聯スル場合ニ於テ例ヘハ甲ナル者犯罪ノ實行者トシテ既ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル後乙者其犯罪ノ教唆者トシテ訴ヲ受ケルカ如キ場合又ハ竊盜罪ニ付キ判決アラタル後贓物故買罪ニ付キ起訴セラルル場合又如シ前ノ刑事事件ノ裁判ニ後ノ訴訟ニ其效力ヲ及ホスヤ否キ又效力ヲ及ホストモハ如何ナル場合ニ如何ナル效力ヲ及ホスヤ此問題ハ決定ハ訴訟力制限證據主義審理主義及ヒ間接審理主義ヲ採用スルカ又ハ之ニ反シテ自由心證主義口頭辯論主義及ヒ直接審理主義ヲ採用スルカニ因リテ分ルモノナリ若シ前者ヲ採ル場合ニ於テハ前例ノ竊盜事件ノ判決ニ於ケル事實ノ認定ハ故買事件ニ於テモ亦確定シタルモト認メサルヘカラス即チ竊盜事件ノ判決ノ理由ハ竊盜ノ事實ヲ法律上認メサルヘカラスト云フニ在ルカ故ニ後ニ起リタル故買罪ノ裁判ヲ爲ス判事ハ前竊盜事件ノ裁判ヲ爲シタル判事ノ得タル事實ノ認定ヲ其儘ニ採用スヘキモノナリ之ニ反シテ後者ニ基テ訴訟ニ於テハ前竊盜事件ノ判事ハ判決ノ事實上ノ理由ニ示スカ如キ心證ヲ得タラズル迄ニ故買

事件ヲ斷スル判事カ同一ノ心證ヲ得ルヤ否ヤハ測リ知ルヘカラス又縱令前竊盜事件ノ判事カ得タル事實ヲ其儘採用セシト欲スルモ直接審理主義ヲ採ルトキハ能ハサル所タリ何トナレハ此主義ニ依レテ證人訊問ノ如キ必ス直接ニ之ヲ取調ヘサルヘカラサルモノナレハ前竊盜事件ニ於テ取調ヘタル證人ノ證言ハ或ハ其判決ノ理由中ニ掲ケラレ之ヲ明瞭スルコトヲ得ルトスルモ是レ決シテ直接ニ審理シタルニ非スシテ全ク此主義ニ反スヘシ故ニ後者ノ主義ニ基テ訴訟法ノ下ニ於テハ故買事件ノ裁判ヲ爲ス判事ハ刑事訴訟ノ規定ニ從ヒ獨立ノ審理ヲ爲シテ竊盜事實ノ如何ヲ確定セサルヘカラス此ノ如クスルトキハ或ハ前ノ竊盜事件無罪トナリシニ拘ハラヌ後ノ故買罪有罪トナルカ如何キ結果ヲ呈スルニ至ルヘシト雖モ本法ノ上ニ於テハ當然生スヘキ結果ニシテ如何トモスル能ハサルモノナリ而シテ今日普通ニ行ハルル學說モ亦予カ右ニ述ベタル所ノ如ク他ノ刑事訴訟ノ判決ニ其後ニ起リタル刑事訴訟ニ對シテ效力ヲ及ボササルヲ以テ原則ト爲セリ然レトモ他ノ刑事訴訟ノ判決ニ或場合ニ於テ之ヲ證據トナスコトヲ得ル場

合ナキニテ大ラズ即チ其判決ノ內容理由ニ證據トヘ爲サズ此處前例ニ依テ竊盜事件ニ付テ何月何日判決ナリシトハ事實及ビ其判決ニ於テ證據ト爲タル證人何某ハ宣誓ノ上其事件ニ付テ證據ヲ爲シタリトハ事實ハ如キハ證據タルコトヲ得ルモノナレハ斯ル證據ハ之ヲ後ノ事件ニ於テ採用スルハ當然決シテ後ノ主義ニ背反スルモノニ非サルナリ而シテ前例ニ依テ前例ニ依テ

第七章 公訴ト民事事件トノ關係

民事事件ハ刑事事件ノ先決問題タルコトアリ例ヘハ竊盜事件ノ場合ニ於テ刑事裁判官ハ其物品ノ被告人ニ屬スルカ又ハ被害者ニ屬スルカヲ判斷セサルヘカス又土地ノ境界變更ノ被告事件刑法第四二〇條ニ於テモ被告カ界標ヲ移轉シタル場所カ正當ノ場所ナリヤ否ヤヲ判斷セサルヘカラス此民事ノ先決問題ニ對スル刑事裁判官ノ地位ハ如何ナルモノナリヤト云フニ元來刑事裁判官ハ犯罪事件ノ範圍ニ屬スル關係ハ獨立シテ確定スルノ職分アルモノナルカ故ニ先決問題タル民事關係ニ付テモ亦自ラ之ヲ確定スルノ任務アリ隨テ其關係別

確定スルニハ刑事訴訟法ニ規定スル證據圖ヲ規定ニ依リ實體的ノ真實ヲ求メ自
ラ之ヲ斷定スヘク決シテ民事裁判所ノ判決ヲ求ムヘキモノニ非ス又之ヲ求メ
ント欲スルモ得ヘカラザルナリ要スルニ刑事裁判官ニ審理及ヒ裁判ニ私法上
ノ先決問題ニモ及フヲ原則トス而シテ此原則ノ行ハルル場合ハ當ニ先決問題
タル民法上ノ關係カ民事裁判所ノ判決ニ依リ未ダ確定セザル場合ハ民事
民事裁判所ノ確定判決アリタル場合ニ於テモ亦然リ然レトモ時トシテハ
民事ノ判決ハ刑事裁判官ヲ羈束スルコトアリ是レ亦此原則ノ例外ヲ爲スモノ
ニ非サルナリ左ニ其場合ヲ舉示スヘシ

刑事裁判官モ民事ノ判決ヲ以テ認メラシタル權利ハ之ヲ保護スヘキモノナリ
元來民法ハ民法ノ規定ニ依リテ定マラル所ノ關係ヲ保護スルヲ目的トスルモノ
ナレハ民事ノ確定判決ヲ以テ其訴訟ノ當事者間ニ於テ當事者ハ處分權ヲ屬ス
ル權利關係ヲ確定シタルモノキハ判決カ實體上不當ナルモ其判決ハ刑事裁判官
ニ對シテ絕對ニ效力アリモ其判決カ然レトモ民事ノ判決ハ其訴訟當事者ニ對シ
テノミ效力アリテ第三者ニ對シテハ效力ナシトモ其民事ノ當事者ノ犯

罪事件ヲ裁判スルトキニ限リテ效力ヲ有スヘシ而シテ其民事ノ判決ハ如何ナ
ル方法ヲ以テ事實ヲ認定シタルカ又ハ其判決ノ生シタル原因ハ當事者ノ懈怠
ニ出タルカ或ハ處分權ノ行使ニ基タカハ刑事事件ニ對スル效力ニ付テ差異
アルコトナレハ例ヘハ民事ノ事件ニ於テ被告甲ノ懈怠ノ爲メ或物件カ乙ノ所有
ナリト判決セラレタルニ其後甲カ乙ヨリ其物件ヲ竊取スルトキハ實際民事ノ
判決前ニ在リテハ甲ノ所有物ナリシモ刑事裁判官ハ此判決ニ羈束セラレタル
ヲ得サルナリ然レトモ此場合ハ前掲原則ノ適用ヲ爲ス場合トハ大ニ異ナルヲ
知ルヘシ何トナレハ前ニ述ヘタル原則ハ民事ノ判決ハ刑事裁判官ニ對シテ如
何ナル程度マテ證據トナルヤノ問題ニ屬シ茲ニ述フル所ノ問題ハ民事ノ判決
ハ權利義務ノ發生スル事實ト看做スコトヲ得ルヤ否ヤニ在レハ全ク別箇ノ問
題ナリトス

前示ノ場合ニ反シ意思表示ニ因リ發生又ハ變更セラルル權利關係ニ非スルヲ
客觀的事實例ヘハ出生ノ如キ事實ニ因リ發生スル權利關係ナルトキハ犯罪前
ニ民事ノ判決アルモ其判決ハ刑事裁判ニ影響ヲ及ホサス此場合ハ民事ノ判決

ト反對ノ事實ヲ認定スルモ民事ノ判決ニ依リテ確定セラレタル關係ヲ侵害スルモノニ非ス例ヘハ甲ナル被告人カ其父乙ヲ殺シタル場合ニ刑事裁判所ニ於テ果シテ乙ハ甲ノ父ナリヤ否ヤヲ審査スルニ當リ審テ民事ノ判決ニ於テ實際親子ノ關係アルニモ拘ハラス戸籍簿ノ誤謬等ニ基キ乙ハ甲ノ父ニ非ストノ認定アリタリトスルモ刑事ノ裁判官ハ決シテ之ニ拘束セラレサルヘシ蓋シ刑法ニ於テ殺罪ヲ重ク罰スル所以ノモノハ犯人ト被害者トノ間ニ實際ノ親子關係アルヲ以テナリ此ノ如キ場合ニ於テハ刑法カ民法ニ其關係ヲ定ムルコトヲ讓ルヲ欲モサル場合ナリト解釋スヘキモノトス

本法第三百一條第六號ハ民法上ノ關係カ先決問題タルトキハ刑事裁判官ハ民事ノ判決ニ拘束セラレヘシトノ意義ニ非シテ刑法カ民事ノ判決ニ因リテ確定セラレタル權利關係ヲ保護セントシタル場合ニノミ其適用ヲ見ルモノニシテ前ニ述ヘタル民事ノ判決カ絕對ノ效力ヲ有スル場合ニ關スル規定ナリト信ス然レトモ予輩ノ信スル所ニ依レハ此規定ハ甚タ狭キニ失スルヲ觀アリ彼ノ特許權侵害ノ被告事件ニ於テ特許權取消ノ審判アル場合ニ於テモ亦本號ト同

第八章 私訴

第一節 私訴ノ目的及ヒ其一般ノ性質

第一 刑事訴訟ノ目的ハ民事訴訟ノ目的トハ大ニ異ナル所アリ即チ一ハ刑罰請求權ヲ主張シ法律秩序ノ維持ニ關スル國家ノ利益ヲ保護スルヲ目的トシ第一條第三條參照一ハ私法上ノ關係ニ基テ各個人ノ利益ヲ保護スルヲ以テ目的トス換言スレハ民事訴訟ノ目的ハ私法上ノ權利ニシテ拋棄スルヲ得ヘキモノタリ是ヲ以テ民事訴訟法ニ於テハ處分權主義行ハルモノトス之ニ反シテ刑事訴訟ニ於テハ國家ハ其刑罰上ノ權利ヲ裁判ノ手續ニ依テ主張シ國家ノ目的ニ從ヒテ其義務ヲ盡スモノナルカ故ニ職權主義行ハルモノトス此ノ如ク刑

事訴訟ノ目的ハ刑ノ適用ニ在ルヲ以テ其訴訟手續モ亦特別ノ性質アルヲ必要トス然レトモ刑事訴訟ハ民事訴訟ト均シク裁判所ノ裁判ニ依リ處分セラルヘキ司法事件ナリ若シ犯罪所爲カ同時ニ私法上ノ結果ヲ生スルトキハ是レ刑事事件及ヒ民事事件カ同一ノ原因ヨリ生スルモノナリ此場合ニモ亦民事事件ハ固ヨリ刑事裁判ノ目的タルモノニ非スト雖モ刑事訴訟法ハ刑事裁判所ヲシテ同一原因ニ基キ實體上牽連スル民事事件ヲ或制限ヲ以テ刑事事件ト共ニ裁判セシムル制度ヲ設クルヲ得ヘシ而シテ民事事件ノ性質上刑事裁判所ノ權限ヲ此ノ如ク民事事件ニ及ホサシムルハ被害者ノ申立ニ因テ行ハルヘキモノトス此被害者カ刑事訴訟手續ニ附加スル關係ハ即チ附帶私訴ノ制度ヲ生ス我刑事訴訟法ニ於テモ佛國治罪法ノ制ニ倣ヒ此制度ヲ認メタリ(第二四條)抑モ附帶私訴ノ制ハ刑罰請求權ト被害者ノ損害賠償ノ權トカ原因ヲ同シクスル當然ノ結果ニ非ス故ニ特ニ法律ヲ以テ之カ明文ヲ設クルニ非サレハ同一ノ裁判所ヲシテ刑事事件及ヒ民事事件ヲ同時ニ審理裁判セシムルヲ得サルナリ然レトモ刑罰請求權及ヒ私法上ノ請求權ヲ同一裁判所ヲシテ審理裁判セシム

ルハ夥多ノ利益アリヲ存ス若シ之ヲ分離シテ審理セシムルトキハ判決ニ抵觸ヲ生シ裁判所ノ威信ヲ害スルト同時ニ權利ヲ毀損スルノ弊害アリ即チ民事裁判所ニ犯罪ヨリ生シタル損害賠償ヲ求ムルトセハ民事裁判所ニ提出セラレタル證據ニテハ十分ナラス又原告モ他ニ證明ノ方法ヲ有セサルヨリ終ニ被害者ノ敗訴トナルコトアルヘシ此ノ如キ弊害ヲ矯メ刑罰請求權ト私法上ノ請求權トニ關シ此兩箇ノ訴訟ヲ調和シ被害者ノ利益ノ爲メ簡易且迅速ノ方法ヲ以テ其賠償ノ請求ヲ保護スルノ方法ハ附帶私訴ノ制ヲ以テ最モ其當ヲ得タルモノトス
本法ニ於テハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還ヲ目的トスル訴ハ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シ民事原告人トシテ提起スルコトヲ得ヘシ此民事原告人又ハ其代理人ノ申立ハ附帶ノ範圍及ヒ私訴ノ判決ノ標準タルヘキモノトス而シテ被告人カ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ受ケタルトキハ特ニ私訴ヲ附帶セシムル原因ナシト雖モ之ヲ民事裁判所ニ讓ルコトナク尙ホ刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判スヘキモノトセリ(第五條第二二五

條

第二 附帶私訴ノ目的及ヒ意義ハ既ニ前段ニ述ヘタルカ如シ是故ニ私訴ノ附帶シタル刑事訴訟ニ於テハ二箇ノ請求即チ國家ノ刑罰請求權ト被害者ノ賠償權トカ相互ニ併立スルモノニシテ此二箇ノ請求ハ同一原因ヨリ生シタルコトハ此二箇ノ請求ニ共通スル點ナリトス然レトモ此二箇ノ請求ヲ結合シ同一ノ訴訟手續ヲ以テ之ヲ主張スルトキハ民事ト刑事ト訴訟上ノ原則ヲ異ニスルカ爲メ困難ナル問題ヲ生スルニ至ルヲ以テ或國ニ於テハ附帶私訴ノ制度ヲ採用セス例ヘハ獨逸治罪法ニ於テハ刑法中ニ求メタル「ブツセ」要價ノ請求ニ限リ之ヲ許シ一般ニ賠償ノ請求ヲ刑事ニ附帶セシムルヲ許ナス我國ニ於テハ請求ノ種類ニ從ヒ之カ制限ヲ設ケ附帶私訴ノ場合ヲ損害ノ賠償及ヒ贓物ノ返還ニ限定シタリ第二條是レ民事ト刑事ト其主義相異ナルヨリ生スル所ノ難問ヲ避ケンカ爲メナリトス右ノ如ク私訴ノ目的ヲ此二點ニ制限シタルヲ以テ姦通罪ノ公訴ニ離婚ノ請求ヲ附帶セシムルコト又ハ私生子認知及ヒ私生子ノ養料請求等ノ請求ヲ附帶セシムルコトヲ得サルナリ

(一) 損害ノ賠償 損害ノ賠償ハ金錢ヲ以テスルモノニ限リ現物ヲ以テスル場合ハ贓物返還ノ内ニ包含ス又損害ハ財產權上ノモノニ止マラス身體自由

名譽ニ對スル損害ヲ含ミ(民法第七一〇條殊ニ名譽ヲ毀損シタル場合ニハ民法第七百二十三條ニ依リ新聞紙上ニ謝罪文ノ廣告等ヲ爲サシムルコトヲ妨グス)

(二) 贓物ノ返還 贓物トハ犯罪ニ因ラ得タル物件ノミニ止マラス犯罪ノ直接ノ目的物ヲ謂フ例ヘハ冒認罪ニ於テ甲ノ土地ヲ犯人カ乙ニ販賣又ハ抵當トレタル場合ニハ甲ハ乙ニ對シ贓物返還トシテ其登記ヲ取消ヲ請求スルヲ得ヘシ蓋シ贓物ナル詞ハ新律綱領ヨリ來リタルモノニシテ舊律ニ於テハ冒認ノ土地ノ如キ犯罪ノ直接ノ目的物モ亦贓物ト稱シタルヲ以テナリ但舊律給沒贓物ノ條ニ依リ官ニ沒收セラルル收賄ノ贓ノ如キハ刑法ニ於テハ贓物ト稱スヘキモノナレトモ訴訟法ニ於テハ贓物ト謂フ能ハス其他不動産ヲ騙取セラレタル場合ニ於テモ被害者ハ加害者ノ所有權ノ登記ヲ取消シ其不動産ノ返還ヲ受タルコトヲ得ヘシ之ニ反シ土地所有者ノ土地賣渡ノ委任狀ヲ偽造シ登記所ニ提出シ賣渡ノ登記ヲ爲スモ其不動産ノ返還ヲ受タルヲ得ス何トナレハ該土地ハ私

害爲造行使罪ノ直接ノ目的ニ非サレハナリ然レトモ今日ノ實際ニ於テハ此場合ニ於テモ損害ノ賠償ニ該當スルモノトシテ附帶私訴ヲ許ス蓋シ當ヲ得タルモノニ非サルヘシ此ノ如ク贓物トハ犯罪ノ直接ノ目的物ニシテ返還トハ現物ノ引渡ヲ請求スルニ止マラス登記ノ取消ヲモ包含スルモノナリトス

贓物ニ工作ヲ加ヘ其形態ヲ變シタルトキハ如何ナル程度マデハ之ヲ贓物ト稱スヘキヤ或ハ原形ヲ變セサル程度ニアルトキ之ヲ贓物ト爲スト謂ヒ或ハ物質ヲ變セサル以上ハ贓物ナリト稱スル者アリ然レトモ此ニ就テハ其當ヲ得タルモノニ非ス此問題ハ工作者カ民法上所有權ヲ取得スルヤ否ヤニ依テ定メタルヘカラス民法第二百四十六條ニ依レハ他人ノ動産ニ工作ヲ加ヘタルトキハ之ニ因テ生シタル價格カ著シク材料ノ價格ニ超ユルトキハ加工者ハ其物ノ所有權ヲ取得ス故ニ贓物ト雖モ民法上別箇ノ所有權ヲ付與スヘキ別物トナリタルトキハ是レ既ニ別物ニシテ犯罪直接ノ目的物ニ非タルナリ唯森林法第五十三條ニ於テ森林竊盜ノ贓物ヲ原料トシテ採取又ハ製造シタル物件ハ同條ノ明文ニ依リ常ニ贓物ト看做スモノナレハ此標準ニ依ルコト能ハス

新

第三 下私訴ノ裁判ハ刑事裁判權ノ内ニ包含スル作用ニ非ス私訴モ亦一箇ノ民事訴訟ニシテ之ヲ普通民事訴訟ト異ナル所ハ附帶シ刑事裁判所ニ於テ本法ニ從ヒ之ヲ裁判スルニ在リ公訴ニ私訴ヲ附帶スルトキハ二箇ノ訴訟ニシテ別ノ裁判所ニ併合シタルニ止マリ隨テ犯罪ニ因テ生シタル損害其他ノ事情ハ裁判所自ラ職務ヲ以テ之ヲ調査スルモノニ非スシテ私訴申立人ハ其請求ノ範圍ヲ定メ又證據ニ付テハ公訴ノ證據方法ヲ援用セサルヘカラス之ニ反シテ刑法第四十八條ニ依リ贓物犯人ハ手ニ現在スルトキ之ヲ被害者ニ還付スル場合ハ被害者ノ申立ヲ要セサルモノナレハ私訴ノ裁判ニ非ス裁判所ノ職權ヲ以テ爲スヘキ處分ニシテ刑事裁判權ノ内ニ包含セラザルモノトス若シ贓物犯人ハ手ニ存セズ第三者ノ手裡ニ在ルトキハ被害者ハ第三者ニ對シ私訴ノ申立ヲ爲ササルヘカラス而シテ被害者カ善意ノ第三者ヨリ返還ヲ受タルヲ得ル贓物ハ盗品及ヒ遺失物ニ限ルモノトス(民法第一九三條第一九四條民法施行法第六一條參照)若シ所有權多數人ハ被害者間ニ爭アレハ主參加ノ方法ヲ以テ私訴ニ加ハルコトヲ得ヘシ(第四條第二項)

第四 公訴ト附帶私訴ト關連之關係ヲ見ルニ公訴ハ主タルモノニシテ私訴ハ從タルモノナリ此性質ヨリテ刑事訴訟手續ヲ以テ蒐集材料材料蒐集ハ私訴請求成立及範圍ヲ定ムルニ足ラサルトモ公訴ハ私訴ノ爲メ熱スレバ公訴ノ取調ヲ終了シ公訴ノ裁判ヲ爲シ私訴ハ其裁判ヲ爲ス熱シテ之ヲ民事裁判所ニ移スト至當トス然レトモ本法ニ於テ之ニ付キ規定ヲ設ケテハ附帶ノ原由ヲ失フニ至ルニ拘ハラズ私訴ノ裁判ヲ爲サザルカラス又之ト同シテ附帶ノ性質トシテ被告人無罪又ハ免訴ト爲リタルハ私訴ヲ民事裁判所ニ移スト當然トス然レトモ本法第二百二十五條ハ被告人無罪又ハ免訴ト爲ルトキニモ亦私訴ニ付キ判決ヲ爲スヘキモノトモテ而シテ同條ノ趣旨ハ私訴ヲ提起スレバ權利拘束ノ效力ヲ生ジタルモノナレバ私訴斷ノ屬ヲ結ハズルガ爲メニ私訴ノ條件ナシトシテ私訴棄却ノ判決ヲ言渡スト斷ラニ非スシテ被告人無罪ト爲リテ損害賠償等ヲ求ムル原因ハ犯罪ニ在リト斷ラ得タルニ至ルモ私訴ヲ受理シタル刑事裁判所於テハ他處前案權例ハ所有權又ハ不當利得等ニ基キ本案ノ判決ヲ爲ス情シトモ當然ノ事ト爲今日

判例ノ認ムル所ナリトス是故ニ損害賠償等カ犯罪ヲ原因トシタルコトハ私訴ヲ附帶セシムルノ條件ニシテ私訴ノ判決ノ條件ニ非スト謂フコトヲ得ベシ是ヲ以テ裁判所ハ私訴ニ付テ訴ノ原因ヲ職權ニ因リテ變更スルコトヲ得ルモノトス

右ニ述フル所ノ場合ニ在リテハ私訴ハ其附帶ノ原因ヲ失ヒタルモノト雖モ本案ノ判決ヲ爲スヘキモノナレトモ之ニ反シテ公訴ニ付キ管轄遷又ハ公訴不受理ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付テモ同一ノ裁判ヲ爲スヘキモノナリ是レ私訴附帶ノ性質ヨリ來ル當然ノ結果ナリトス又本法第二百二十五條ニ於テモ同第二百二十三條ノ刑ノ言渡ヲ爲ス場合及第二百二十四條ノ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ノミニ私訴ノ判決ヲ爲スヘキモノトシ第二百二十二條ノ管轄遷ノ言渡ノ場合ハ之ニ包含セシメス若シ此場合ニ於テ尙ホ私訴ノ裁判ヲ爲スヘキモノトセハ第二百條ノ規定ト抵觸シ即チ公訴ノ裁判ニ先チ私訴ノ裁判ヲ爲スニ至ルヘシ是レ私訴ヲ附帶セシムル趣意ニ反スルモノニシテ即チ公訴ノ判決ノ抵觸ヲ避ケシム欲スレバ公訴ノ裁判ニ先チ私訴ノ裁判ヲ爲ス

此規定ナキヲ以テ是レ亦民事訴訟法ニ從ヒ此手續ヲ爲スヘキモノニ非サルナ
第六十六條 私訴ヲ公訴ニ附帶シテ提起シ得ヘキ時期如何本法第四條ニ依レハ公訴
ニ付キ第二審ノ判決アルマデ附帶シテ提起スルコトヲ得ヘキヤ明カナリ然
レトモ豫審中私訴ヲ附帶シテ提起スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ疑問ナリ舊治
罪法ニハ其第一百條ニ重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サントスル
トキハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨ヲ豫審判事ニ申立ツ
ヘシ豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ルヘキノ申立ヲ受ケタルトキ
ハ檢察官ノ起訴ナキモ公訴私訴ヲ併セ受理シタルモノトス云云トテ同第二
百三十條ニ依レハ書記ハ豫審終結ノ言渡書ノ原本ヲ民事原告人ニ送達スヘキ
ノ手續アリテ民事原告人ハ其第二百四十六條ニ依リ私訴ニ付キ豫審判事ニ越
權ノ處分アルトキハ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ得ヘク此故障ニ
付キ會議局ノ判決アレハ民事原告人ハ更ニ其第二百五十七條ニ依リ此會議局
ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得ヘク其他豫審免訴ノ場合ニハ被害者ハ民事

裁判所ニ非サレバ要償ノ訴ヲ爲スコト能ハストノ明矣治罪法第二十四條ノ説
ケタリ右ノ如ク治罪法ニ於テハ豫審終結ノ通知アリ又故障ヲ爲スコトヲ得ル
ハ豫審免訴ノ場合ニモ差支テ見ス然レニ本法ニ於テハ此等ノ規定ヲ削除セリ
テ以テ豫審免訴ノ場合ニ私訴ノ處分ハ之ヲ如何ニスヘキヤ付キ疑ヲ生シ終
ニ豫審中ハ私訴ヲ爲スコトヲ得ストノ説ヲ爲ス者アルニ至レリ曰ク本法第四
條ノ明文ニテハ豫審判事ニ私訴ヲ申立アルコトヲ得ヘキカ如シト雖モ豫審判
事ハ被告人ニ對スル利益又ハ不利益ノ證據ヲ蒐集スルニ止マリ私訴ニ對シテ
ハ無關係ナリ豫審中私訴ヲ爲シ得ヘシトスレバ免訴ノ場合ニ豫審判事ヨリ私
訴ノミヲ公判ニ移送スルカ若クハ私訴ハ當然消滅スルモノト謂ハサルヘカラ
ス第一ノ如クセントスルモ刑事訴訟法中私訴ノミヲ公判ニ移送スル規定ナケレ
ハ之ヲ實行スルコト能ハス又第二ノ如クセントスルモ一旦裁判所ニ於テ受理
シタルモノハ當然消滅スヘキ理由ナリ若シ此ノ如クセハ公判ニ於テ無罪又ハ
免訴ヲ言渡ス場合ニモ尙ホ私訴ニ付キ判決ヲ爲ストノ第二百二十五條ノ精神
ニ反ス故ニ裁判以後ニ非サレハ私訴ヲ爲スコトヲ得スト按ズルニ豫審判事ハ

私訴ヲ裁判スルハ權ナシト雖モ第四條三第二審ノ判決ヲ廢テハ何時モ其公訴ニ附帶シテ之ヲ由リテ觀ルヤ豫審中ト雖モ私訴ヲ申立スル者妨ナク即チ公訴ノ提起以後ハ私訴附帶ノ基本ヲ生スルモノナレバ之ヲ提起スルコトヲ得ヘキナリ又一步ヲ譲リ第四條ノ第二審ノ判決アルモノ云云ト第二審ニ於テ始メテ私訴ヲ提起スルモノト得ルモノ變例ヲ示ス力爲メニ揭ケタルモノナリト解釋スルモ豫審ノ規定ニ屬スル第二百二十三條三民事原告人アル文字アリテ民事原告人又ハ其親屬等ハ豫審判事カ之ヲ證人トシテ宣誓セシムルコトヲ得ストモリ若シ豫審中私訴ヲ提起スルコトヲ得ストモハ此文字ハ解スヘカラサルモノナリ故ニ第四條ノ何時ニテモトアル中ニハ豫審中ヲ含ムモノトス而シテ豫審判事ハ公訴ニ付テ最終ノ裁判ヲ爲スノ權ナキカ如ク私訴ニ付テ何等ノ處分ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ公訴事件ヲ公判ニ付スルノ決定ヲ爲シタルトキハ私訴ハ其公訴ニ附從シテ公判ニ移付セラルモノニシテ此場合ニハ豫審判事ハ私訴ニ付キ單ニ取次ノ機關タルニ過キヌ又若シ免訴ノ決定ヲ爲シタルトキハ私訴ハ其附帶スヘキ基本ナキニ至リタルカ故ニ當然消滅

スヘシ其他私訴ハ公判以後ニ非サレハ附帶スルモノト得ストモハ甚ダ不當ノ結果ヲ生ス公訴ヲ公判ニ移テ豫審決定ハ舊治罪法ト異ナリ之ヲ被害者ニ通知スルノ規定ナシ隨テ被害者ハ私訴ヲ附帶スルノ時機ヲ失フヘシ之ニ反逆檢事豫審ヲ求ムレハ第六十五條ニ依リ其處分ヲ被害者ニ通知スヘキモノトス是ハ一ハ私訴申立ノ機會ヲ得セシメシカ爲メナリ唯豫審免訴ノ場合ニ民事原告人ニ之ヲ通知ヲ爲ササルハ法律上缺點ナリ謂ハサルハ然ラス故ニハ豫審ニ第七條私訴ヲ公訴ニ附帶セシムルハ犯罪ニ因リテ生シタル損害賠償等ノ請求スル唯一ノ方法ニ非ス民事裁判所ニモ亦之ヲ訴テ刑罰ヲ得ヘシ然レハ犯罪ニ基テ損害賠償等ヲ民事裁判所ニ出訴シ中途ニシテ之ヲ公訴ニ附帶セシムルコトヲ得ルモ又公訴ニ附帶セシムル私訴ハ中途ニシテ之ヲ止メ民事裁判所ニ移スコトヲ得ルモ否ヤト云云ニ第三條說ハ一途ハ之ヲ拋棄シ然レモ人ト豫備スヘキモノ以テ他ノ裁判所ニ之ヲ移スコトヲ得ル第二條說ハ佛國ニ於テ行ハルモノニシテ民事裁判所ヨリ刑事裁判所ニハ之ヲ移スコトヲ得定例トモ刑事裁判所ヨリ民事裁判所ニ之ヲ移スコトヲ得得例トモ其理由ハ前所ハ私訴者係

ハ民事裁判所ニ普通ノ管轄ニシテ刑事裁判所ノ管轄ハ特別ノ管轄ナリ其普通
ナル民事訴訟止メ特別ナル手續ニ移スコトヲ得ルモ特別ノ手續止メ普
通ノ手續ニハ之ヲ移ス可クナシト爲セリ我國舊治罪法ニ於テ其第七條ニ於
テ此問題ヲ決シ民事裁判所ニ民事訴訟爲タルモノハ檢察官方起訴シタル場合
ニ限リ取下ヲ爲シテ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得ルモノトシ又刑事裁判
所ニ民事訴訟爲タルモノハ被告人ノ承諾ヲ得テ取下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ
其訴ヲ爲スヲ得ルモノトシ更ニ本法ニ於テ此條ヲ削除シタルハ故ニ第一
ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第九十八條ニ從ハサルヘカラス即チ民事裁判所
ニ訴ヲ爲シタルモノハ本案ニ付キ被告ノ第一回辯論ヲ始マルマデハ被告ノ
承諾ヲ得テ取下ヲ何時ニモ更ニ公訴ニ附帶スルコトヲ得ルモノ又其口
頭辯論ヲ終結シ至ルマデハ被告ノ承諾ヲ得テ之ヲ取下ヲ何時ニモ更ニ公訴
ニ附帶スルコトヲ得ルモノ第二ノ場合ニ於テハ本法ニ於テ民事訴訟ノ取下ハ被告
ノ承諾ヲ要スル規定ナキ故ニ何時ニモ其承諾ナシテ之ヲ取下ハ更ニ民
事裁判所ニ出訴スルモノト得ルモノト信ス蓋シ被告ノ本案ニ關スル辯論ヲ以

テ聽訴ト爲スハ民事訴訟法ノ如キ明文ヲ要シ此明文ヲ缺ク始メテ聽訴
後ニ被告ニ本案ノ判決ヲ求ムル權ヲ生スト明ク得ルモノトナリ第一
第八條民事訴訟法爲スト得ルモノハ被害者其相續人被害者ノ債權者民法第四
三條ニシテ他人ノ生命ヲ害シタル場合ニハ被害者ノ父母配偶者及ヒ子民法第
七一一條ナリトス而シテ被害者上ニ犯罪ニ因リテ直接ニ其權利ヲ侵害セラレ
タル者ヲ謂フモノトシ又附帶ノ目的物ニ關シテハ民事訴訟法ニ於テ
訴追ヲ受テヘキ者ハ正犯教唆者又ハ從犯タルモノ間ハハ被告人民法第七一九條
參照及ヒ民事擔當人民法第七一四條乃至第七一六條民法施行法第九條第一項
第一九號參照蓋シ又ハ遺失物ノ占有者民法第一九三條第一九四條參照及ヒ被
告人ノ相續人刑法附則第六二條ナリトス

第二節 私訴ヲ公訴ニ附帶セシムル結果

既ニ前章ニ述ベタルカ如ク私訴ハ之ヲ民事裁判所ニ訴フルコトヲ得ヘク又公
訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ訴フルコトヲ得ヘシ而シテ民事裁判所ニ訴ヘタル

トキ民事訴訟法ニ從テヘテ公訴ニ附帶シテ訴訟タルトキ本法ニ違由セテ
ルヘカラス今公訴ニ附帶シテ本法ニ從テ結果選舉シレハ左ノ如シ
第一 裁判所ノ管轄
(一) 事物ノ管轄 民事訴訟法ニ依レハ民事訴訟ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法
第十四條ノ第一號及ヒ第二十六條ニ依リ訴訟物ノ價額又ハ金額カ百圓以上ナ
ルトキハ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ百圓以下ナルトキハ區裁判所ノ管轄ニ屬シ
ルモノトス然ルニ私訴ヲ公訴ニ附帶シテ訴ケルトキハ其金額多寡ニ拘ハラ
ズ公訴ノ管轄モル裁判所ニ於テ管轄ス即チ價額百圓以上ナルモ區裁判所ニ於
テ之ヲ管轄スルコトヲ得ヘク又價額百圓以下ナルモ之ヲ地方裁判所ニ於テ管
轄スルコトヲ得ヘシ(第四條第二二五條第三四〇條)是レ蓋シ私訴ヲ公訴ニ附帶
セシムルニ付キ其障礙ト爲ルモノハ努メテ之ヲ排除シタルニ由ルモノトス
(二) 職務ノ管轄 普通民事訴訟ニ於テハ訴訟ノ提起ハ必ス第一審ノ裁判所タ
ル區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テセラルヘカラス而シテ第二審裁判所ハ第一
審裁判所ノ判決ニ對シテ控訴ヲ裁判スルニ止マルヘシ(裁判所構成法第一四條

第二六條第三七條第一項第三八條)然ルニ私訴ハ本法第四條ニ於テ公訴ニ付キ
第二審ノ判決アルマデハ之ヲ公訴ニ附帶スルヲ得ルモノト規定セルカ故ニ公
訴カ第二審ニ屬スルトキハ第一審ヲ經テ直チニ私訴ヲ第二審ニ提起スルコ
トヲ得ヘシ此場合ニ於テ私訴ニ付キ判決アリタルトキハ其判決ハ第二審ノ裁
判ナルカ故ニ私訴當事者ハ其判決ニ對シ控訴權ヲ有セス直チニ上告ヲ爲スノ
外ナキナリ又大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ私訴ヲ附帶セシムルトキハ之
ヲ大審院ニ提起スヘキナリ此場合ハ大審院ハ第一審及ヒ終審トシテ裁判スル
モノニシテ私訴當事者ハ控訴上告ノ權ナキハ勿論ナリ
元來私訴ヲ公訴ニ附帶セシムル程度ヲ第二審ノ判決アルマデニ制限シ上告審
ニ至レハ之カ附帶ヲ許ササル所以ハ上告裁判所ハ下級裁判所ノ裁判ニ關シ法
律違背ノ有無ヲ裁判スルニ止マリ事實ノ審理ヲ爲ササルカ爲メナリ故ニ私訴
附帶ノ時期ハ常ニ之ヲ事實裁判所タル第二審以下ニ限レリ
又第四條ニ依リ私訴ハ第二審ノ判決アルマデハ附帶スルコトヲ得ルカ故ニ第
一審ニ於ケル訴ノ原因ヲ第二審ニ至リテ變更スルコトヲ得ルモノトス是レ亦

民事訴訟法ト異ナル所ナリ。第一、民事訴訟法ニ依リテ裁判權ハ同第十條及第二十條ニ依リテ定マルモ、私訴ヲ公訴ニ附帶セシムルトキハ土地ノ管轄ハ全ク公訴ノ管轄ニ從ヒ、即チ刑事訴訟法第二十六條以下ノ裁判權ニ從フモノトス。第二、私訴提起ノ方式、民事訴訟法ニ依レハ訴訟ノ提起ハ同第九十條第二項ニ規定シタル要件ヲ具備スル訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲ス。而シテ又同法ニ於テモ第二百一十一條第二百一十一條第九十六條第三百七十八條第二項第三百八十一條第三項ノ場合ニ於テハ口頭ヲ以テ訴ヲ爲スコトヲ得ルト雖モ同第二百一十二條ニ依リ必ス其後ニ於テ書面ヲ提出セタルヘカラス。若シ書面ヲ差出ザルトキハ申立ナキモノト看做セリ。私訴モ亦民事裁判所ニ提起スルトキハ必ス此方式ニ依ラサルヘカラルモ之ヲ公訴ニ附帶セシムルトキハ刑法附則第六十一條ニ依リ必スシモ民事訴訟法第九十條第二項ノ要件ヲ具備セル書面ヲ提出スルコトヲ要セス。通常ノ文書ヲ以テ之ヲ提起スルヲ得ヘク又口頭ヲ以テモ私訴ヲ爲スコト

ヲ得ヘシ其他民事訴訟法ニ依リテ公訴ノ提起ハ同第四百一十五條第二項ノ要件ヲ具備シタル控訴狀ヲ裁判所ニ差出スコトヲ要シ上告ノ提起ハ同第四百三十八條第二項ニ定メタル要件ヲ具備シタル上告狀ヲ差出スコトヲ要ス。私訴ノ刑事裁判所ニ公訴ニ附帶セシムルトキハ控訴又ハ上告ハ本法第二百一十四條第二百一十三條ニ從ヒ必スシモ其申立書ニ民事訴訟法ノ定ムル如キ要件ヲ記載スルニ及ハザルモノトス。又民事訴訟法ニ依リ印紙ノ貼用ヲ要ス然レトモ私訴ノ刑事ニ附帶スルモノハ刑法附則第六十一條ニ依リ通常ノ文書ヲ以テスルモノト得ルモノナルカ故ニ相當印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス。私訴ノ提起ニハ印紙ノ貼用ヲ要セサルモ私訴判決ノ執行ヲ爲スニハ印紙ノ貼用ヲ要スルヲ抑モ私訴ノ判決ヲ執行スルニハ本法第三百二十三條ニ民事訴訟法ノ規定ニ從フアルカ故ニ民事訴訟法第五百十六條ニ依リ執行文ノ付與ヲ必要トシ又同第五百二十八條ニ依リ判決正本ヲ被告ニ送達スルヲ要ス然ルニ此二箇ハ請求ヲ爲スルハ民事訴訟法第五條ニ於テ相當印紙ヲ貼用スル

要スルモノトモテ然ルニ私訴判決ハ執行力ハ印紙貼用スルヲ要セズト爲ス者凡其說ニ曰ク民事訴訟用印紙ハ民事訴訟書類ニ貼用スルモノニ以テ刑事訴訟書類ニ貼用スルモノニ非ス刑事附帶私訴判決執行正本ノ付與申立書ハ刑事訴訟書類一部ニ屬スレハ印紙貼用ヲ要セズ然レモ公訴ノ確定判決ハ公訴ノ判決ト共ニ執行スルモノト爲シテ獨立ノ執行ヲ要スルカ故ニ本法第三百二十三條ニ於テ民事訴訟法ニ依リ執行文ノ付與ヲ申請セサルヘカラス既ニ民事訴訟法ニ於テ執行力アル正本ノ付與ヲ申請スル以上ハ民事訴訟用印紙法ニ依リ相當印紙ノ貼用ヲ要スルハ當然ナルト信ス又私訴訴訟差押假處分ニ付テモ同一ノ議論ヲ以テセサルヘカラスト信ス

第三 上訴及ヒ故障期間 第三 上訴及ヒ故障期間 第三 上訴及ヒ故障期間 第三 上訴及ヒ故障期間 第三 上訴及ヒ故障期間

附帶私訴ニ付テハ本法適用スルヲ以テ原則ト爲スガ故ニ上訴及ヒ故障期間モ亦民事訴訟法ニ從フヘキモノニ非ス故ニ民事訴訟法第二百五十五條第四百條第四百三十七條第四百六十六條ニ依ラスシテ控訴ハ五日(第二五二條)上告ハ三日(第二七一條)控訴ハ三日(第二九五條)故障ハ三日(第二九二條)ニ依リテ爲ス

第四 再審

私訴ヲ民事裁判所ニ訴ヘタルトキハ同第四百六十七條以下ニ依リ確定判決後取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ヲ許スモ之ニ反シ私訴ヲ公訴ニ附帶シタルトキハ私訴ニ付テハ再審ノ申立ヲ許サズ是レ本法第三百二條ニ依リ再審ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノヲ檢事刑ノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ其親屬ニ制限シタルニ依リテ明カナリ唯同第三百七條ニ依リ公訴ニ付キ再審ノ訴アリテ上告裁判所ニ於テ其原由アルコトヲ認メタルトキハ之ニ附帶セル私訴ハ公訴ノ判決ヲ破毀スルト同時に私訴ノ判決ヲ破毀シテ更ニ審理ヲ爲サシムルモ私訴ハ獨立シテ再審ヲ求ムルコトヲ得サルナリ

第三節 私訴ノ消滅

公訴權及ヒ私訴權ハ其發生ノ原因ヲ同シスルモ其消滅原因ハ必ズシテ同シカラス私訴消滅スルモ私訴權存スルコトアリ私訴消滅スルモ公訴存スルコトアリ今公訴ノ消滅原因ニ付キ私訴權ノ存否如何ヲ觀察セシメ第一被告ノ死

去ハ公訴ヲ消滅セシムルモ私訴權ハ刑法附則第六十二條ニ依リ被告ハ又相續人ニ對シ之ヲ民事裁判所ニ請求スルコトヲ得シ第二告訴ノ拋棄ハ之ヲ爲シ犯罪行為ハ消滅スルモノニ非サレハ私訴權ハ依然存在ス第三公訴權確定判決アルモ本法第九條第二項ニ依リ私訴權ノ消滅セサルコトハ明カナリ又無罪免訴ノ公訴確定判決アルモ同第五條ニ依リ私訴權ハ消滅セサルモノトス第四利ノ廢止モ適用スヘキ刑罰ノ消滅スルニ止マリ犯罪所爲ハ消滅セス隨テ私訴ハ消滅セサルモノトス第五大赦ニ付テハ異論アリト雖モ素ト大赦ハ所爲自體ヲ消滅セシムモノニ非サレハ私訴ノ成立ニ影響ヲ及ボサス唯其第六タル時効ニ付テハ公訴私訴全ク同一ナリ此原由ノ生シタルトキハ私訴ハ公訴ト共ニ消滅スルモノトス

私訴ノ消滅原因ハ本法第七條ニ規定セリ然レトモ私訴ハ元來民事ノ請求權ナレハ其消滅原因ハ茲ニ規定スルノ外普通民事ノ訴權ノ消滅原因ヲ生シタルトキハ直チニ消滅スルハ當然ナリ例ヘハ辨濟混同等ノ類以テ之ヲ消滅原因ト爲シ(一)拋棄又ハ和解

私訴ノ提起後拋棄若クハ和解ヲ爲シタルトキハ別ニ判決ヲ要セス私訴ハ著ス又私訴ヲ取下ケタル場合モ亦同シ但拋棄ハ請求權ヲ消滅セシメ訴ノ取下ハ訴ノミヲ消滅セシム

(二)確定判決

茲ニ所謂確定判決トハ即チ私訴ノ確定判決ニシテ公訴ノ確定判決ニ因リテ私訴ノ消滅セタルコトハ前既ニ述ヘタル所ノ如シ若シ私訴ノ確定判決後再ヒ其訴ヲ提起シタルトキハ相手方ハ既判力ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ヘタ裁判所ハ一事不再理ノ原則ニ依リテ其訴ヲ却下スルモノトス

(三)時効

私訴ノ時効ハ公訴ニ附帶シタルトキト民事裁判所ニ訴ヘタルトキト間ハス公訴ノ時効ト其運命ヲ同シウス詳言スレハ兩者カ其時効期間及ビ起算點ヲ同シウシ又時効中斷ノ原因モ異ナルナシ但公訴ニ付キ刑ヲ言渡シタル判決確シタルトキハ私訴ハ民法ノ時効ニ從ヒ且公訴ノ判決確定シタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス(第九條乃至第一一條)

民事ノ時効ハ刑事ノ時効ヨリ長期ナルニ拘ハラズ犯罪ニ基キ私訴ノ時効ハ之ヲ公訴ノ時効ト同一ナラシメタルハ何故ナリヤ立法者ノ趣旨ハ公訴權時効ニ種リタルトキハ社會ハ既ニ犯罪ヲ遺忘スルモノニシテ國家ハ其犯罪ヲ罰スルコトヲ得タルナリ然ルニ被害者ハ仍ホ犯罪ヲ原因トシテ私訴ヲ爲スコトヲ得ルトセハ是レ公訴ノ時効ヲ設ケタル趣旨ニ反スト云フニ在リ而シテ又公訴ニ付キ有罪ノ確定判決アリタル場合ニ限り民法ノ時効ニ從ハシメタル所以ハ被告人既ニ刑ノ言渡ヲ受ケ其判決確定シタルトキハ公訴權ハ消滅スルモ被告人ハ之カ爲メニ犯罪人タルコトヲ確認セラレタルモノナルカ故ニ被害者ハ犯罪ヲ原因トシテ賠償ヲ要求スルモ前述ノ趣旨ト抵牾スル所ナシト云フニ在リ其或ハ現行法ノ解釋トシテ第九條ニ於テ私訴ノ時効ハ公訴ノ時効ニ同シト云フハ公訴消滅スレハ私訴ノ附帶ハ消滅ストノ規定ニシテ私訴ヲ純粹ナル民事ノ訴トシテ提起スルトキハ民法ノ時効ニ從フヘキモノナリト曰フ者アリ然レトモ第九條ノ明文ニ「公訴ニ附帶セシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ云云」アレハ公訴ハ如何ナル方式ヲ以テ如何ナル裁判所ニ之ヲ訴フルモ犯罪ヲ以テ原因

トシタル損害賠償又ハ贓物ノ返還ナリセハ公訴ノ時効ニ從ハサルヘカラス又此ノ如クナラサレハ第九條第二項ニ於テ特ニ公訴ニ付キ刑ヲ言渡シタル確定判決アリタル場合ニ限り民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フトノ例外ヲ設ケタルノ謂レナキナリ又右論者ハ曰ク本法第五條ニ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ求ムル妨礙ト爲ルコトナカルヘシト規定シアリ而シテ公訴カ時効ニ罹リタルトキハ本法第六十五條第二百二十四條ニ依リ豫審又ハ公判ニ於テ免訴ヲ言渡スモノナルカ故ニ右第五條ニ依リ私訴ハ公訴ノ時効ニ罹ルト同時ニ消滅セシテ其時効ハ民法ニ從フヘキモノナリト然レトモ論者ノ如ク第五條ヲ解スルトキハ第九條第一項ト抵觸スヘシ故ニ第五條ノ規定ノ趣旨ハ犯罪ヲ原因トセスシテ他ノ訴權ニ基クトキハ無罪免訴ノ言渡アリタル場合ナリト雖モ賠償又ハ返還ヲ請求スルコトヲ得ルト解釋セサルヘカラス即チ犯罪ヲ原因トシテハ民事裁判所ニ於テモ其請求ヲ爲スヲ得ス是ヲ以テ第五條ニ於テモ單ニ賠償返還ヲ要スル妨礙ト爲ラスト規定シ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還云云ト規定セヌ要スルニ現行法ノ精

神ハ公訴時効後ニ於テハ被害者ハ犯罪アリト稱スルコトヲ得サルモノトスルニ在リ論者ハ私訴ヲ以テ公訴ニ對スル名稱ト爲シ其附帶ノ場合ノミヲ偏見シタルカ爲メニ其解釋ヲ誤リタルモノナレトモ私訴トハ附帶ノ場合ニノミ用フル名稱ニ非スシテ犯罪ヲ原因トスル民事ノ請求權タルコトヲ忘ルヘカラサルナリ

解釋論トシテハ右ニ述ヘタルカ如シト雖モ立法論トシテハ私訴ハ民法ノ時効ニ從ハシムルヲ至當トス何トナレハ犯罪以外ノ不法行為ナリセハ消滅時効ハ長期ニシテ其情狀重キ犯罪ニ因ル不法行為ノ時効ノ短期ナルハ其權衡ヲ得タルモノニ非ナレハナリ

私訴ノ時効期間其起算點及ヒ中斷ハ被告人ニ對シテモ又民事擔當人ニ對シテモ公訴ノ時効ト同一ナリトス其故ハ本法第十一條第一項ニ於テ時効ノ中斷ハ民事擔當人ニ對シテモ亦其效ヲ及ホスコトヲ規定セリ此規定ハ公訴及ヒ私訴ノ二者ニ通スル規定ナレハ之ニ依リテ時効ノ中斷ハ民事擔當人ニ對シテモ亦被告人ト同一ナリト爲シタルコトヲ知ルト同時ニ民事擔當人ハ縱令犯罪者ニ

非ナルモ私訴時効ノ期間及ヒ起算點ハ之ト同一ナラシムルノ趣旨ナルコトハ明カナリ或ハ民事擔當人ニ對シテハ私訴ノ時効ハ民法ニ從フト主張スル者アリト雖モ是レ立法論トシテハ可ナルヘキモ解釋論トシテハ其當ヲ得タルモノニ非ス

以上述フルカ如ク私訴ノ時効ハ公訴ノ時効ト同一ナリト雖モ犯罪ヲ原因トモス犯罪以前ニ存在シタル訴權ニ基キ賠償又ハ返還ヲ請求スルハ既に公訴カ時効ニ因リ消滅シタル場合ニ於テモ爲シ得ヘキナリ是レ前ニ述ヘタル本法第五條ノ解釋ヨリスルモ敢テ多言ヲ要セサル所トス例ハ物件ヲ寄託セシニ受託者之ヲ費消セシ場合ニ於テ公訴ハ時効ニ因リテ消滅シタルトキハ委託物費消罪ヲ主張シ以テ賠償返還ヲ請求スルコトヲ得サルヘキモ民法第六百六十二條ニ依リ受託者ノ義務ヲ主張シ寄託ノ物件取戻ノ訴ヲ起シ其物件現存セザルトキハ民事訴訟法第九十六條第三號ニ依リ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘク又竊盜罪ニ付キ其公訴ハ時効ニ罹ルモ物件ノ所有者ハ其所有權ヲ主張シテ取戻ヲ請求スルコトヲ得ヘキカ如シ

私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ起算シ第一〇條公訴ニ附帶シテ其訴ヲ起スト民事裁判所ニ訴フルトテ間ハス公訴ノ時効ト其期間ヲ同シウシ時効ノ停止ナルモノヲ認メス第九條第一項又第十一條ノ時効云云ノ中ニハ公訴ノ時効ト私訴ノ時効トヲ包含スルモノナルカ故ニ公訴ニ付キ起訴豫審若クハ公判ノ手續アリタルトキハ公訴ノ時効ト共ニ私訴ノ時効モ亦中断セラルモノトス換言スレバ公訴ノ時効ト私訴ノ時効トハ其中斷ノ原因ヲ同シウシ二者ハ終始其運命ヲ共ニスルモノトス此時効中断ニ付テ問題タルヘキハ公訴ノ未タ起ラサル前ニ私訴ノミニ付キ時効期間内ニ民事裁判所ニ起訴シタルトキハ其效力ハ私訴時効ノ經過ヲ中断スルト同時ニ延テ公訴時効ノ進行ヲモ中断スルヤ否ヤ是ナリ或ハ此場合ニハ公訴ノ時効ニ對シテハ何等ノ影響ヲ及ボササルモ私訴時効ノ經過ヲ中断スルノ効ヲ生スト云フ者アルヘシ然レトモ此ノ如クセハ公訴時効ノ時効ヲ同シラセサルノ結果ヲ生シ第九條ニ於テ私訴ノ時効期間ヲ公訴ノ時効期間ト同一ニシ其運命ヲ共ニセシムル趣旨ニ反スヘシ又或ハ此場合ニ於ケル私訴時効ノ中断ハ其效力ヲ公訴時効ノ中断ニ及ボスヘシト云フ者アリ此説ハ公

私訴其運命ヲ同一ニスルノ點ニ於テハ批難ナカルヘシ畢竟此問題ハ第十一條ノ起訴云云トアル中ニハ私訴ヲ民事裁判所ニ提起シタル場合ヲモ包含スルヤ否ヤニ歸著スヘシ然レトモ若シ之ヲ包含スルモノトセハ私益ノ爲メニ公益ヲ害スルヲ結果ト爲ルヘキヲ以テ第十一條ニハ私訴ヲ民事裁判所ニ提起シタル場合ヲ包含セスト斷定セサルヲ得ヌ是ヲ以テ私訴ノ時効ハ公訴時効ノ中断ノ爲メニ自然中断ノ効ヲ生スルノ外ハ如何ナル手續ニ依リテ他ニ中断ノ途ナキニ至ルヘシ然レトモ此斷定ニ依リテ茲ニハ不都合ヲ生ス即チ私訴ヲ民事裁判所ニ提起シタル場合ニ其訴訟ノ未タ落著セサル中私訴ノ時効經過スルモノトアルヘシ此場合ニハ私訴ニ付キ訴訟提起シタルモ其權利ヲ保護セラレザルヲ止ムニ至ルヘシ或ハ私訴ノ時効ニ種々タルヤ否ヤ問題ハ即チ私訴ヲ提起スルヲ得ルヤ否ヤノ問題ナレハ私訴ヲ提起スル當時ニ於テ生スヘキモノニシテ私訴時効ノ期間内ニ有效ニ私訴ヲ民事裁判所ニ提起シタル以上此問題ハ存セスト云フ理由ヲ以テ右ノ場合ニ私訴ハ消滅セスト論スル者アリ然レモ第九條ニ於テ公訴ニ附帶間ニ獨立シテ民事裁判所ニ其訴訟提起シタル民事裁判所ニ屬セ

訴ノ時効其期間同シトモ規定アル以上ハ私訴民事裁判所ニ訴テ起シタル後ニ於テ公訴ノ時効其期間同シトモアルハ其所以故ハ此點ニ探ルニ足ラス要スルニ此不都合ヲ排除シ公訴ノ時効終始同大ナリタルニ由ル已ムヲ得タルノ結果ナリ其所以ハ當刑ニ就テハ之ハ同一ニモ公訴權時効ニ權レハ私訴權モ亦消滅シ被害者ハ犯罪ヲ以テ其原得テ其罪モ公訴ノ時効經過後ニ於テ犯罪ヲ訴テ防禦方法トシテ主張得ルハ當然ナリトモ例ニ於テ犯人カ騙取シタル證書ヲ證據ト爲シテ民事裁判所ニ呈圖メ支拂ヲ請求シタルトキハ被害者ハ詐欺取財罪ヲ主張セテ其請求ヲ拒ムコトヲ得ル蓋シ公訴權消滅後ハ犯罪ヲ鳴ラスコトヲ得ズトモ經旨ヲ貫徹セテ其欲セハ右ノ抗辯ヲ主張スルヲ得スト爲メハ至當ナル元來私訴ノ時効ハ其性質トシテ私訴ノ請求權ヲ消滅セザルヲ止メ一種ノ防禦方法トシテ抗辯之爲メ消滅セザルモノトモ即テ抗辯ヲ相替メ抗辯ヲ除クハ外ハ請求權ヲ合テ其力故時効ニ權ルコトナラズ其事實就民刑ニ異ナルハ組合メテ適合ニ其旨得其使命モ同一ニスルハ誠ニ欲セハ其理セザルハ畢竟此問題ハ第十一節

(三) 第三編 訴訟行爲

前編ニ於テ刑事訴訟ノ主體及目的物ヲ説明シタルヲ以テ本編ニ於テハ刑事訴訟ノ内容ヲ説述セシトモ訴訟ノ内容ニ關シタルハ(一)訴訟行爲(二)訴訟行爲ニ關スル原則(三)訴訟行爲ノ進行順序ノ要點ヲ説カサルヘカラス然レドモ訴訟ノ進行順序ハ次編ニ之ヲ讓テ本編ニ於テハ刑事訴訟ノ各段階タル豫審公判ニ共通ナル一般ノ訴訟行爲並ニ訴訟行爲ノ一般ニ共通ナル原則ヲ論スルコトトモ豫審公判ニ共通ナル訴訟行爲中(一)訴訟進行ノ作用ヲ爲スルモノニ付タル被告ハ對スル原告ノ呼出ヲ論シ(二)強制ノ作用ヲ爲スモノニ付タル被告ハ對スル原告ノ呼出ヲ論シ(三)強制作用ヲ付タル證據ニ關スル行爲及(四)裁判人件ニ對スル搜索押(五)審理ノ作用ニ付タル證據ニ關スル行爲及(六)裁判人件ヲ並ニ論述スベシ應爾ニ受メヘテ審理ノ作用ニ付タル證據ニ關スル行爲及(七)裁判人件各訴訟行爲ニ共通ナル原則トシテハ口頭辯論主義公開主義及(八)訴訟行爲爲スヘキ時ニ關スル規則即チ期日及ヒ期間ノ説明ヲ爲スヘシ

第一章 被告人、呼出

第一 被告人ノ呼出ハ一定ノ日時ニ裁判所ニ出頭セシメテ命令ニ依テ訴訟ヲ爲
之ニ應ゼシメルトキハ強制ヲ受クヘキ趣旨ヲ含ムモノナリ證人鑑定人通事ニ對
スル呼出モ亦強制ノ趣旨ヲ含ムモ被告人以外ノ訴訟關係人ニ對スル呼出ハ強
制ヲ含マズ而シテ呼出ニ應ゼサル場合ニ制裁ヲ加フヘキコトヲ豫告セシメ呼出
ハ證人鑑定人通事ニ對スル呼出ニシテ被告人ニ對スル呼出ハ此豫告ヲ爲サズ
第二 一呼出ノ機關ニハ左ノ三アリ一 訴訟ニ參與スル豫限ノ範圍ニ在リテ
(一) 呼出ヲ命スル者 呼出ヲ命スル者ハ呼出ニ應ゼサルトキハ制裁ヲ加フル
權ヲ有スル者ナラサルヘカラス其制裁ハ人ノ自由ヲ制限スル勾引拘留ナルカ
故ニ裁判權ヲ有スル者ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトシ隨テ呼出ニ命令ニシテ呼
出ヲ命スル者ハ裁判所ナリ但現行犯ノ場合ニハ檢事司法警察官ハ呼出ヲ命
ルコトヲ得ヘシ

(二) 呼出ヲ指揮スル者 指揮トハ執行ノ作用ヲ惹起ス作用ナリ指揮ヲ爲ス者

ハ裁判所書記ナリ豫審ニ於テハ裁判所書記ハ執達吏ニ召喚狀ヲ送達シ委任スルニ止マリ公判ニ於テハ裁判所ノ命令ニ従ヒ書記人名義ヲ以テ呼出狀ヲ發ス

(第二一三條第二項現行犯ノ場合ハ檢事ハ被告人ヲ呼出ストキハ直接ニ執達吏ニ送達ヲ命シ司法警察官ハ呼出ヲ爲ストキハ巡査連兵上等兵及テ送達セザルモ出頭ノ義務ヲ負ヒ且送達人ハ被疑者ノ居間ニ在リテ當ヤテ豫審ニ至ル

(二)呼出ヲ執行スル者豫審ニ於テハ執達吏ニ限リ(第七六條第三項前段公判ニ於テハ執達吏及ヒ郵便配達人ヲ以テ執行機關ト爲ス第一九條ニ依リ出頭公判第三ノ呼出ノ方式ハ書面ヲ以テス豫審ニ於テハ召喚狀ヲ發シ第六九條公判ニ於テハ呼出狀ヲ發ス第二一三條檢事司法警察官ハ召喚狀ヲ以テ呼出ヲ爲ス召喚狀及ヒ呼出狀ノ内容ハ大體ニ於テ同一ナリ(第七六條第一項第二項第二一四條ニ依リテ送達人ハ被疑者ノ居間ニ在リテ當ヤテ豫審ニ至ル

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時三之ヲ訊問シ其訊問ハ出頭ノ日ノ翌日ニ延ブルヲ許サス第六九條第二項公判ノ呼出狀ニ因リ出頭シタル被告人ニ對シテ即時ニ公判手續ヲ爲スル規定ナシト雖モ出頭ノ日ヲ過タルヲ得テ此處當

第二章 被告人ニ對スル強制處分
第一節 勾留

(二) 勾留ニハ公訴ノ提起アリタルコトヲ條件トセス即チ豫審判事及ヒ公判裁判所カ勾留スルヲ原則トシモ本法第四百十四條及ヒ第四百六條ニ於テハ起訴前ニ檢事カ勾留ヲ爲シ得ル場合ヲ認メタリ

刑事訴訟法 訴訟行為 被告人二對入 本強制處分 勾當

(イ) 一定ノ人カ其所爲ヲ行ヒタリトノ嫌疑アリ
(ロ) 其所爲カ犯罪ナリトノ嫌疑アリ
(ハ) 其爲シテ犯罪ニ關スルモノトシテ、
アルコトヲ要スルニハ前項條件ノ外、
勾留ヲ爲スニハ前項條件ノ外、
要スルニハ前項條件ノ外、
(イ) 被告人ノ逃亡スルコトヲ推測スルハ、
(ロ) 被告人ノ逃亡スルコトヲ推測スルハ、
是ナリ逃亡ノ恐ニハ事實ニ基キコトアリ又ハ法律上ノ推定ニ依ル場合アリ茲
ニ所謂逃亡トハ普通意義ノ如ク狭キモノニ非ス廣ク訴訟上ノ意義ニ解スヘキ
モノニシテ即チ犯罪人カ遠隔ノ地又ハ外國ニ渡ルカ如キ場合ノミナラス
近傍ニ潜伏スル場合又ハ所在ヲ移シ又ハ姓名ヲ變スルカ如キ場合ヲモ包含ス
ヘシ但此等ノ場合ニ於テ勾留ノ處分ヲ爲スニハ逃亡ノ事實ノ十分確定スルヲ
要スルモノニシテ若シ逃亡ヲ推知スヘキ一定ノ事實ナキトキハ之ヲ勾留スル
事ト能ハサルモノトシテ獨逸訴訟法ニ於テハ勾留狀ニ該事實ヲ記載スルヲ要ス

新

雜 報

○取締役ノ權限ト株券ノ供託
アリタル時ヨリ生スルモ將タ商法第六十八條ノ規定ニ從ヒテ株券ヲ監査役
ニ供託シタル時ヨリ有效ニ其權限内ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲スヘキ
カニ付キ大阪控訴院カ後段ノ如ク是認判決セラレタルヲ大審院ハ之ヲ破毀シ
テ曰ク商法第六十八條ニ取締役ハ定款ニ定メタル員數ノ株券ヲ監査役ニ供
託スヘキコトヲ規定シタルモノ之ヲ以テ取締役タル資格ヲ得ルヲ要件ト爲シタ
ルニアラス又其供託ヲ爲シタル後ニアラザレハ取締役ノ任務ニ屬スル行爲ヲ
爲スコトヲ得タル規定ナシ而シテ第六十四條ニ取締役ハ株主總會ニ於テ株
主中ヨリ之ヲ選任ストノ規定アリテ他ニ取締役カ就任スルニ當リ何等ノ條件
ヲ要スルコトノ規定アラサルヲ以テ既ニ株主總會ニ於テ株主中ヨリ選任セラ
レタル取締役ハ第六十八條ノ株券ヲ供託スルト否ト拘ハラズ取締役ノ任
務ヲ有效ニ行フコトヲ得セシムル法意ト解釋セサルハカラス畢竟取締役ハ株

券供託ノ義務ハ會社ヨリ之ヲ强要スルヲ得ヘク若シ其保證タル株券供託ノ義務ヲ履行セサルトキハ第百六十七條ノ規定ニ依リ之ヲ解任スルヲ得ルニ過キサルモノトスト(大審院明治三十五年(分)第三百四十九號株主總會決議無效宣)
 ○運送取扱人ノ責任ノ時効ニ運送人ノ責任ハ其惡意ニ基ク場合ノ外ハ荷受人カ運送品ヲ受取リタル日運送品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ其引渡アルヘカリシ日ヨリ一年ヲ經過セハ時効ニ因リテ消滅スルモノトス商法第三二八條此一年ノ時効ニ因リテ消滅スヘキ責任ハ運送取扱人ノ惡意ニ基ク場合ヲ除キテハ頗ル廣汎ナルモノニシテ若シ被告ニ於テ惡意ニ非サルコト及ヒ運送品ヲ受取リタル日若クハ運送品ノ引渡アルヘカリシ日ヨリ一年ヲ經過シタルコトヲ證明シタルトキハ之ニ時効ニ因ル免責ヲ言渡ササルヘカラス此問題ニ付キ大審院ハ頗ル不明確ノ理由ヲ以テ判決ヲ與ヘテ曰ク「商法第三百二十八條第一項ハ荷受人カ運送貨物ヲ受取リタル場合又同條第二項ハ運送貨物ノ全部滅失シタル場合ニ適用ス可キ規定ニシテ原判決ノ認メタル如ク貨物カ滅失シタルニアラスシテ上告會社カ荷送人ニ貨物引換證ヲ交付シ後更ニ貨物引換證ヲ作成

シテ他人ニ貨物ヲ引渡シ債權者ニ損害ヲ加ヘタル如キ場合ニ適用ス可キ規定ニアラスト(大審院明治三十五年(分)第三百四十九號株主總會決議無效宣)
 ○手形ノ受取人タル資格ト被裏書人タル資格 約束手形ノ受取人カ後裏書

ニ因リテ其手形ヲ取得シタル場合ニ於テ裁判上其受取人タル資格ニ於テ振出人ニ對シ手形金額ノ支拂ヲ請求スル場合ト被裏出人トシテ請求スル場合トハ別箇ニ觀察スヘキモノナルカ換言スレハ受取人トシテ支拂ヲ請求シ其訴訟ノ確定シタル後更ニ被裏書人トシテ同一人ニ對シ支拂ヲ請求シタルトキハ裁判所ハ一事不再理ノ原則ニ依リテ其請求ヲ却下スヘキモノナリヤ否ヤニ付キ大審院ハ判決シテ曰ク「手形ノ所持人ハ受取人トシテ之ヲ所持スルト被裏書人トシテ之ヲ所持スルトヲ問ハス其所持人タルコトハ一ナリト雖モ受取人トナル行為ト被裏書人トナル行為トハ互ニ獨立シテ成立スル事實ナルヲ以テ受取人トシテ手形ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルト被裏書人トシテ之ヲ所持スル事實ヲ請求ノ原因トスルトハ同一ニ非タルコトハ自ラ明ナリ故ニ原院カ本件ヲ以テ一事再理ニ非スト判斷シタルハ相當ニシテ云云」(大審院明治三十五年(分)第三百四十九號)

號十二月十六日第一民事部判決十五

○演說會 本月二十一日午後六時半ヨリ本校第二講堂ニ於テ生徒演說會ヲ

開キタリ演題ハ「單本位貨幣制度ノ利害」ト云フ一題ニシテ左ノ諸氏登壇各自雄

辯ヲ揮ハレタリ辯士中金貨單本位制ヲ是認セラレタルハ中本吉次郎吉川幸雄

西府小平細井清八名取保中村勘左衛門校友ノ六氏金銀複本位制ヲ可トスト論

ハレタルハ川西傳作氏ニシテ九時半頃閉會シタリ

○擬律試驗 本月九日第二學年擬律試驗ヲ執行シタリ其問題左ノ如シ

東京市内一疊商方ニ於テ其雇人某力能ニ同業内ニ於テ其一頭ヲ捕ヘ之ニ

對シ其筋ヨリ抽鼠買上代金引換證ヲ受ケタルニ懸賞抽鼠ノ結果金百圓ノ

賞金ニ當藏スルコトナレリ此場合ニ於テ雇主(疊商)ハ其百圓ヲ自己ニ蒙

メントシ又タ雇人ハ之ヲ己ニ引渡サンコトヲ雇主ニ請求シタリ

知ラス孰レカ其當ヲ得タルヤ又本問ニ於テ雇主ノ命ニ依テ捕ヘタルトモ

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(齊藤子學士出題)

年約束手形金請求事件明治三十
十二月十六日第一民事部判決

○演說會 本月二十一日午後六時半ヨリ本校第二講堂ニ於テ生徒演說會ヲ
開キタリ演題ハ「單本位貨幣制度ノ利害」ト云フ一題ニシテ左ノ諸氏登壇各自雄
辯ヲ揮ハレタリ辯士中金貨單本位制ヲ是認セラレタルハ中本吉次郎吉川幸雄
國府小平、細井清八名取保中村勘左衛門校友ノ六氏金銀複本位制ヲ可トスト論
セラレタルハ川西傳作氏ニシテ九時半頃閉會シタリ

○振律試驗 本月九日第二學年振律試驗ヲ執行シタリ其問題左ノ如シ
東京市內一疊商方ニ於テ其雇人某カ戲ニ同家內ニ於テ臥一頭ヲ捕ヘ之ニ
對シ其笛ヨリ捕鼠買上代金引換證ヲ受ケタルニ懸賞抽籤ノ結果金百圓ノ
賞金ニ當籤スルコトナレリ此場合ニ於テ雇主(疊商)ハ其百圓ヲ自己ニ收
メントシ又々雇人ハ之ヲ已ニ引渡サントナ雇主ニ請求シタリ
知ラス歟レカ其當ヲ得タルヤ又本問ニ於テ雇主ノ命ニ依テ捕ヘタリトモ
ハ其答ヲ異ニスヘキヤ(吾孫子學士出題)

○高等科校外生募集廣告

高等科講義錄第三號目次(二月十二日發行)

- | | |
|---------------------------|------------|
| ○天皇ニ付テノ推問其他憲法法典ニ就テノ質疑應答 | 法學士 道島 義一 |
| ○隔鄰者間ニ於ケル意思表示ニ關スル推問 | 法學士 橋本 義太郎 |
| ○私法ニ關スル學說ノ評議、我民法ト關連民法トノ差異 | 法學士 鈴木 英太郎 |
| ○民法ト民事訴訟法トノ關係ニ付テノ講義 | 法學士 鈴木 英太郎 |
| ○商業登記及ヒ商業ニ付テノ關係ニ關スル推問 | 法學士 橋本 義太郎 |
| ○營業ノ擴張及ヒ商業關係ニ付テノ推問 | 法學士 橋本 義太郎 |
| ○遺失物及ヒ其他ニ付テノ推問 | 法學士 岡田 朝太郎 |
| ○法治國ニ付テノ講義 | 法學士 岡田 朝太郎 |
| ○假令ニ關スル質疑應答ニ推問及ヒ豫審ニ關スル講義 | 法學士 岡田 朝太郎 |
| ○法律ノ資格ニ關スル講義 | 法學士 秋山 彌之介 |
| ○羅馬法(前二頁至二八頁) | 法學士 田中 通 |

◎高等科講義錄 毎月二回發行月謝金四十錢
○入學希望者ハ此處至學科以マールヲ可トス
和佛法律學校
三十六年二月

法學志林

每月一閱十五日發行
校友、生徒、校外生三限
一册特價郵稅共金九錢
十册前金郵稅共金八十錢

第四十號

二月十五日發行

志林

○法律行為之原因(一)

岡松参太郎

纂論

○取引所(續)

海山獵夫

批評

○疑義一束

校

校友一柳貞吉

解疑

百二十二條
○鐵道及郵便ノ行

法學士 塚田達二郎

其他

判例、雜報、記事

數十件

發行所

和佛法律學校

(明治二十二年十二月九日內務省許可)
(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可) 毎月二十圓三月至六月八圓七月一日至二月十三日十五圓六月十八日二十日廿一日廿三日其五圓六圓廿七日廿八日九圓三十日十圓

明治三十六年二月廿五日印刷

明治二十六年二月廿六日發行

(定價金貳拾五錢)

東京市牛込區牛込北町十番地

發行
者
知
秋
原
敬
之

印順著 小宮山俱好

印刷所
金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所
司法省
指定
和佛法律學校

(電話番町百七十四番)